

# Groupmax Server - Scan Version 7

解説・操作書

3020-3-D14-20

## 対象製品

R-15236-676 Groupmax Server - Scan Verison 7 07-00 (適用 OS: Windows 2000 ,Windows Server 2003 , Windows Server 2008)

R-18236-676 Groupmax Server - Scan Verison 7 07-00 (適用 OS : HP-UX)

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P. のオペレーティングシステムの名称です。

InterScan は、トレンドマイクロ株式会社の商標です。

InterScan for Groupmax は、トレンドマイクロ株式会社の商品名称です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

## 発行

平成 16 年 3 月 3020-3-D14 (廃版)

平成 16 年 6 月 3020-3-D14-10 (廃版)

平成 24 年 9 月 3020-3-D14-20

## 著作権

Copyright (C) 2004, 2012, Hitachi Solutions, Ltd.

2004, 2012, Hitachi, Ltd.

## 変更内容

変更内容 (3020-3-D14-20) Groupmax Server - Scan Version 7 07-80

追加・変更内容	変更箇所
Windows 2008 使用時の注意事項の説明を追加した。	付録 D

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3020-3-D14-10) Groupmax Server - Scan Version 7 07-00

追加・変更内容
登録文書のウイルスチェック機能に関する記述を追記した。



# はじめに

---

このマニュアルは、Groupmax Version 7 の、Server - Scan Version 7 の機能及び使用方法について説明したものです。Server - Scan を利用したシステムの環境、及び運用の設定、並びにシステムの管理について理解していただくことを目的としています。

## 対象読者

Groupmax のサーバの環境設定、運用及び管理を行うシステム管理者の方を対象としています。このマニュアルでシステム管理者とは、次の前提知識がある方とします。

- Windows 2000, Windows Server 2003, Windows Server 2008, HP-UX
- Groupmax Object Server あるいは Groupmax High - end Object Server
- Groupmax Address Server
- Groupmax Mail Server

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

### 第 1 章 概 要

Server - Scan の機能の概要を説明しています。

### 第 2 章 Server - Scan のインストールとアンインストール

Server - Scan のインストール及びアンインストール方法、ウイルスチェックエンジンの組み込み方法について説明しています。

### 第 3 章 Server - Scan の環境設定

Server - Scan の運用に必要な情報の設定手順について説明しています。

### 第 4 章 Server - Scan の運用

Server - Scan の運用方法について説明しています。

### 第 5 章 Server - Scan のクラスタ環境での設定と運用

Server - Scan をクラスタ環境で使用する場合の、設定及び運用方法について説明しています。

### 第 6 章 Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用

Server - Scan でウイルスチェックを行う Groupmax の各アプリケーションサーバの、設定及び運用方法について説明しています。

### 第 7 章 コマンドリファレンス

Server - Scan が提供するコマンドの構文、戻り値、メッセージなどについて説明しています。

### 第 8 章 メッセージ一覧

Server - Scan の運用時に、Groupmax Address Server Console ウィンドウに出力されるメッセージについて説明しています。

はじめに

付録 A ウイルス感染検出通知メールの形式

Server - Scan がウイルスに感染したファイルを検出した場合に、管理者やファイル所有者に送信するメールの形式について説明しています。

付録 B 隔離ディレクトリ下に作成される説明ファイルの形式

Server - Scan がウイルスに感染したファイルを隔離する場合に作成する、説明ファイルの形式について説明しています。

付録 C アプリケーションプログラムから参照できる変数名一覧

Server - Scan がウイルスに感染したファイルを検出した場合に起動するアプリケーションプログラムから、参照できる変数名一覧を説明しています。

付録 D Windows 2008 使用時の注意事項

Windows 2008 で使用する場合の注意事項について説明しています。

## 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

マニュアル名	マニュアル番号
Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド	3020-3-B56
Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド	3000-3-475
Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編	3020-3-D10
Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編	3000-3-A80
Windows NT Groupmax Remote Installation Server Version 3	3020-3-A40
Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド	3000-3-473

## マニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を以下に示す略称で表記しています。

製品名称	略称
Groupmax Server - Scan Version 7	Server - Scan
Groupmax Object Server Version 6	Object Server
Groupmax High - end Object Server Version 6	High - end Object Server
Groupmax Address Server Version 7	Address Server
Groupmax Mail Server Version 7	Mail Server
Groupmax Document Manager Version 6	Document Manager

製品名称	略称
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System および Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System および Microsoft(R) WindowsServer(R) 2003, Standard Edition 日本語版 および Microsoft(R) WindowsServer(R) 2003, Enterprise Standard Edition 日本語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition 日本 語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日 本語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise x64 日本語版お よび Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard x64 日本語版お よび Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版お よび Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版	Windows NT
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System および Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System	Windows 2000
Microsoft(R) WindowsServer(R) 2003, Standard Edition 日本語版 および Microsoft(R) WindowsServer(R) 2003, Enterprise Standard Edition 日本語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition 日本 語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日 本語版	Windows 2003
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise x64 日本語版お よび Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard x64 日本語版お よび Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise x64 日本語 版および Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard x64 日本語版	Windows 2008

Windows 2000 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2000」と読み替えてください。

Windows Server 2003 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2003」と読み替えてください。

Windows Server 2008 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2008」と読み替えてください。

はじめに

## このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号について説明します。

記号	意味
[ ]	キーを示します。
[ ]+[ ]	+の前のキーを押したまま、後のキーを押すことを示します。

このマニュアルでは、FLORAシリーズの代表的なキーボード表記を使用しています。

## 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としておりますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

諦め（あきらめ）、宛先（あてさき）、桁（けた）、汎用（はんよう）、閉塞（へいそく）



# 目次

<b>1</b>	<b>概要</b>	<b>1</b>
1.1	Server - Scan とは	2
1.2	Server - Scan の機能	3
1.3	使用できるウイルスチェックエンジン	4
<b>2</b>	<b>Server - Scan のインストールとアンインストール</b>	<b>5</b>
2.1	Server - Scan のインストール	6
2.1.1	WindowsNT 版 Server - Scan	6
2.1.2	HP-UX 版 Server - Scan	9
2.2	ウイルスチェックエンジンの組み込み	10
2.3	Server - Scan のアンインストール	11
2.3.1	WindowsNT 版 Server - Scan	11
2.3.2	HP-UX 版 Server - Scan	13
<b>3</b>	<b>Server - Scan の環境設定</b>	<b>15</b>
3.1	新規導入時の Server - Scan の環境設定	16
3.1.1	Windows NT 版 Server - Scan	16
3.1.2	HP-UX 版 Server - Scan	21
3.2	Server - Scan の環境設定内容の変更	32
3.2.1	Windows NT 版 Server - Scan	32
3.2.2	HP-UX 版 Server - Scan	33
3.3	Server - Scan の環境設定中に表示されるメッセージ一覧	38
<b>4</b>	<b>Server - Scan の運用</b>	<b>51</b>
4.1	Server - Scan サービスの起動	52
4.1.1	Windows NT 版 Server - Scan	52
4.1.2	HP-UX 版 Server - Scan	53
4.2	Server - Scan サービスの停止	54
4.2.1	Windows NT 版 Server - Scan	54
4.2.2	HP-UX 版 Server - Scan	55
4.3	ウイルス感染ファイル検出時の対処方法	56

4.4	ウイルスチェックエンジンおよびパターンファイルの更新方法	58
4.5	各種障害発生時の対処方法	59
4.6	Server - Scan 運用時の注意事項	61

## 5

	Server - Scan のクラスタ環境での設定と運用	63
5.1	Windows NT 版 Server - Scan	64
5.1.1	クラスタ環境で使用するための条件	64
5.1.2	クラスタ環境の新規設定	64
5.1.3	クラスタ環境の新規設定時の注意事項	65
5.1.4	既存環境からのクラスタ環境への変更	65
5.1.5	クラスタ環境のアンインストール	65
5.1.6	フェールオーバーした時の注意事項	65

## 6

	Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用	67
6.1	Mail Server の設定と運用	68
6.1.1	Mail Server でのウイルスチェックの概要	68
6.1.2	環境設定の方法	73
6.1.3	ユーザ移動時の影響	74
6.1.4	感染メール / 掲示記事の扱い	75
6.1.5	感染時の通知	75
6.1.6	暗号化・デジタル署名したメールの送受信	76
6.1.7	こんなときには	77
6.2	Document Manager の設定と運用	80

## 7

	コマンドリファレンス	81
7.1	概要	82
7.2	GSS_START	83
7.3	GSS_STOP	87
7.4	vkstat	90
7.5	mlreqvk	94
7.6	mlcnclvk	100
7.7	mlcnsvk	102

<b>8</b>	<b>メッセージ一覧</b>	<b>105</b>
8.1	Groupmax Address Server Console ウィンドウに表示されるメッセージ一覧	106

<b>付録</b>	<b>119</b>	
付録 A	ウイルス感染検出通知メールの形式	120
付録 B	隔離ディレクトリ下に作成される説明ファイルの形式	123
付録 C	アプリケーションプログラムから参照できる変数名一覧	124
付録 D	Windows 2008 使用時の注意事項	126
付録 D.1	Groupmax Address Console ウィンドウの表示	126
付録 D.2	コマンド実行時の注意事項	126

<b>索引</b>	<b>127</b>
-----------	------------

## 図目次

図 1-1	Server - Scan の概要 1	2
図 4-1	メッセージファイルの切り替え	61
図 6-1	ウイルスチェックの場所	69
図 6-2	ウイルスチェックがない場合の遷移	70
図 6-3	ウイルスチェックがある場合の遷移	71
図 6-4	ウイルスチェックがない場合の遷移	72
図 6-5	ウイルスチェックがある場合の遷移	73

## 表目次

表 2-1	ウイルスチェックエンジンの組み込み先	10
表 3-1	Server - Scan の環境設定項目	22
表 4-1	隔離用ディレクトリの形式	57
表 6-1	対象データ	68
表 6-2	通知先宛先（送信）	76
表 6-3	通知先宛先（受信）	76
表 6-4	暗号化・デジタル署名したメールの扱い	76
表 C-1	引数に指定できる変数名一覧	124



# 1

## 概要

この章では、Server - Scan の機能概要について説明します。

---

1.1 Server - Scan とは

---

1.2 Server - Scan の機能

---

1.3 使用できるウイルスチェックエンジン

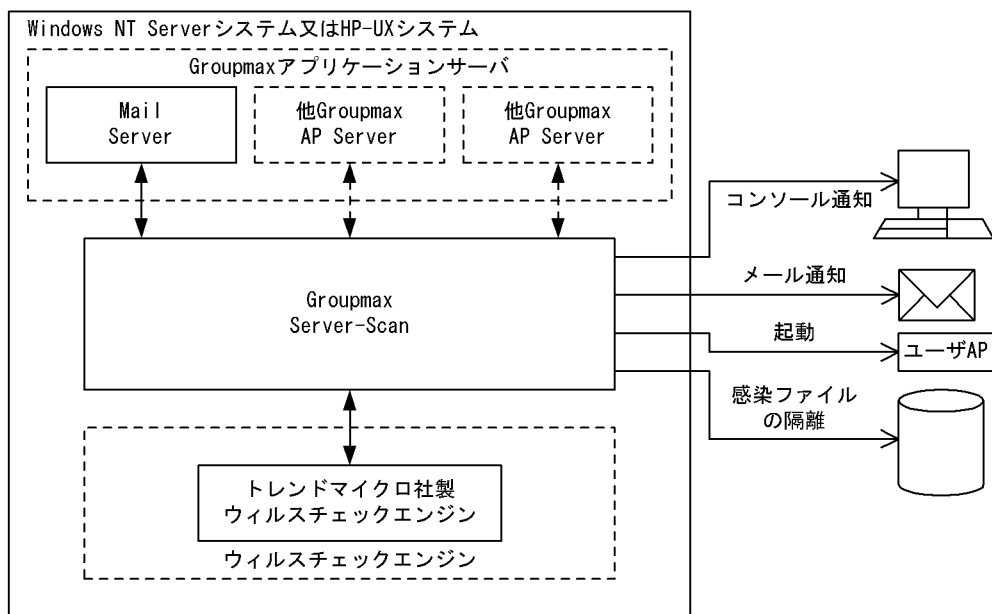
---

## 1.1 Server - Scan とは

Server - Scan は、サードパーティ製ワクチンソフト（ウイルスチェックエンジン）、及び Groupmax アプリケーションサーバ（Mail Server 等）と連携して、日立の統合型グループウェア Groupmax を媒介したウイルスの拡散を防止するための機能を提供します。

Windows NT 版および HP-UX 版 Server - Scan の概要を次に示します。

図 1-1 Server - Scan の概要 1





## 1.2 Server - Scan の機能

---

### (1) ウイルス感染チェック機能

Groupmax アプリケーションサーバが扱うファイル（メールの添付ファイル等）が、ウイルスに感染していないかチェックします。

### (2) 感染ファイルの駆除機能

ウイルスに感染したファイルを検出した場合、感染ファイルを含むメールおよび掲示板記事を破棄するか、感染ファイルからウイルスを駆除（感染ファイルから悪い部分を削り取る）した後に再使用するかを選択できます。但し、ウイルスの駆除は次の状態の時に失敗します。

- ウイルス感染ファイルが圧縮されたファイル内で検出された場合。
- 検出されたウイルスが、ウイルスチェックエンジンが未知なウイルスの場合。

チェックに失敗した場合、環境設定での設定に関係なくメールおよび掲示板記事を破棄します。

### (3) 感染ファイル検出時の通知機能

ウイルスに感染したファイルを検出した場合は、次に示す方法で管理者やファイル所有者に通知します。

- Groupmax Address Server Console ウィンドウへのメッセージ出力
- メールによる通知
- ユーザ作成アプリケーションプログラムの起動

### (4) 感染ファイルの隔離機能

ウイルスに感染したファイルを特定ディレクトリに隔離（保存）することができます。このファイルを元に、後で管理者が感染内容等の詳細調査を行う場合に使用できます。

## 1.3 使用できるウイルスチェックエンジン

---

Server - Scan で使用できるウイルスチェックエンジンは次のとおりです。

- トレンドマイクロ社 InterScan for Groupmax

# 2

## Server - Scan のインストールとアンインストール

この章では、Server - Scan のインストール、及びアンインストール方法について説明します。

---

2.1 Server - Scan のインストール

---

2.2 ウイルスチェックエンジンの組み込み

---

2.3 Server - Scan のアンインストール

---

## 2.1 Server - Scan のインストール

---

### 2.1.1 WindowsNT 版 Server - Scan

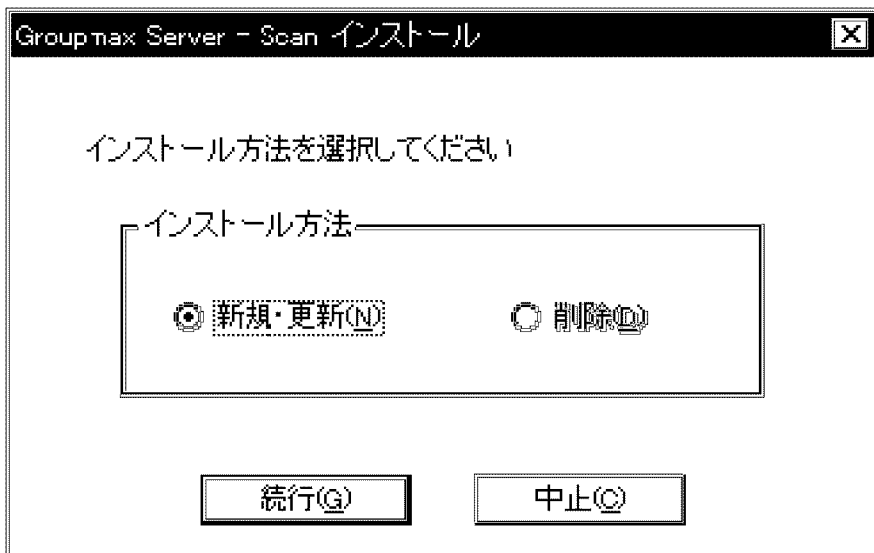
Windows NT 版 Server - Scan のインストール方法について説明します。

Server - Scan のインストールは、すべての Groupmax アプリケーションが停止している状態で行ってください。Groupmax アプリケーションが動作中の状態では、Server - Scan のインストールに失敗することがあります。

次の手順に従ってインストールします。

1. システム管理者のユーザアカウントでログオンします。
2. Windows NT エクスプローラから Server - Scan の INSTALL.EXE を起動します。  
操作環境がチェックされた後、Server - Scan インストールダイアログが表示されます。
3. 会社名と個人名を入力します。
4. 「開始 (S)」を選択します。

Server - Scan のインストールオプションを選択するダイアログが表示されます。



#### 「新規・更新 (N)」

Server - Scan を新規にインストールします。又は、現在のバージョンに更新します。

#### 「削除 (D)」

Server - Scan のソフトウェアを削除します。ディレクトリ、ファイル、及びレジストリエントリが削除されます。詳細は「2.3 Server - Scan のアンインストール」

ル」を参照してください。

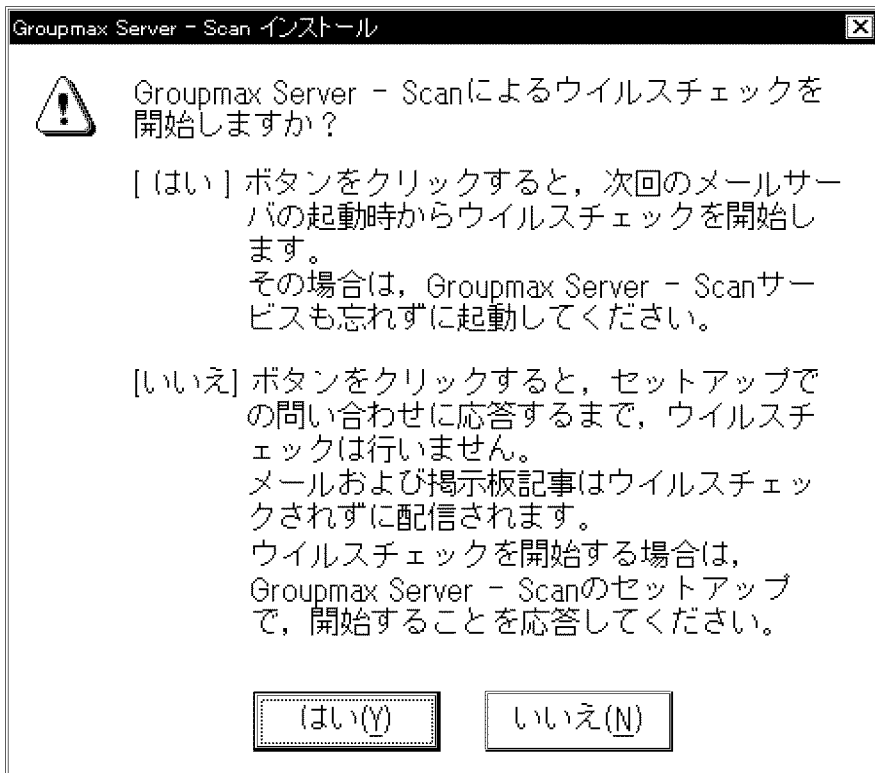
5. インストールオプションで「新規・更新 (N)」をチェックして、「続行 (G)」を選択します。  
更新インストールの場合は、インストール先のディレクトリ設定ダイアログは表示されません。項番 8. に進んでください。新規インストールの場合は、インストール先のディレクトリ設定ダイアログが表示されます。
6. インストール先のディレクトリを次のように指定してください。  
 <ディスクのドライブ名> : ディレクトリ名  
 デフォルト値として、< Windows NT がインストールされているドライブ > :  
 ¥win32app¥HITACHI¥SrvScan が設定されています。ディレクトリの変更が必要な場合は、半角なら 144 文字、全角なら 72 文字以内で指定してください。なお、ディレクトリ名に「全角英大文字」は使用しないでください。
7. 「続行 (G)」を選択します。  
インストール先ディレクトリがない場合、ディレクトリ作成確認ダイアログが表示されます。



「はい (Y)」を選択するとディレクトリが作成されます。

8. インストール状況を示すダイアログが表示されます。
9. インストールが成功した場合、更新インストールの場合は、有効化オプション選択ダイアログは表示されません。項番 11 へ進んでください。新規インストールの場合は、有効化オプション選択ダイアログが表示されます。

## 2. Server - Scan のインストールとアンインストール



10. 「はい (Y)」または「いいえ (N)」を選択してください。

11. インストールが終了すると、終了確認のダイアログが表示されます。



「終了 (E)」を選択してインストールを終了します。

## 2.1.2 HP-UX 版 Server - Scan

HP-UX 版 Server - Scan のインストールは、すべての Groupmax アプリケーションが停止している状態で行ってください。Groupmax アプリケーションが動作中の状態では、Server - Scan のインストールに失敗することがあります。Server - Scan のインストール先ディレクトリは「/opt/SrvScan」と「/var/opt/SrvScan」です。

### (1) DAT からのインストール

次の手順に従ってインストールします。

1. Server - Scan のテープを DAT ドライブにセットしてください。
2. スーパーユーザでログインし、「tar xf /dev/rmt/0mn」を実行してください。  
下線部分は環境及び使用する媒体種別によりデバイスファイル名が異なります。使用する環境及び媒体種別に合わせてデバイスファイル名を変更してください。ただし、「/etc/hitachi\_setup」コマンドが、すでにマシン上に展開されている場合は不要です。
3. Hitachi PP Installer である「/etc/hitachi\_setup -i /dev/rmt/0mn」を実行します。下線部分は環境及び使用する媒体種別によりデバイスファイル名が異なります。使用する環境及び媒体種別に合わせてデバイスファイル名を変更してください。
4. 「D)Install Software」を選択します。
5. スペースキーで「Groupmax Server-Scan」を選択し、「D)Install Software」を選択します。  
インストール処理が開始されます。
6. インストール処理が完了しましたら、「Q)Quit」を選択して終了します。

### (2) CD-ROM からのインストール

次の手順に従ってインストールします。

1. マウント用の /cdrom ディレクトリを作成します。「mkdir /cdrom」を実行してください。すでにマウント用ディレクトリが作成済の場合は不要です。
2. Server - Scan の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしてください。
3. CD-ROM をマウントします。「mount /dev/dsk/clt2d0 /cdrom」を実行してください。既にマウント済の場合は不要です。下線部分は環境によってデバイスファイル名が異なります。使用する環境に合わせてファイル名を変更してください。
4. スーパーユーザでログインし、「/cdrom/HPUX/SETUP /cdrom」を実行してください。
5. 「D)Install Software」を選択します。
6. スペースキーで「Groupmax Server-Scan」を選択し、「D)Install Software」を選択します。  
インストール処理が開始されます。
7. インストール処理が完了しましたら、「Q)Quit」を選択して終了します。

## 2.2 ウイルスチェックエンジンの組み込み

### (1) トレンドマイクロ社製のウイルスチェックエンジンを使用する場合

Server - Scan のインストールが完了したら Server - Scan の環境設定を行う前に、トレンドマイクロ社製のウイルスチェックエンジンとそのエンジンが使用するパターンファイルを、Server - Scan のインストールディレクトリに組み込まなければなりません。次に示すどちらかの方法で組み込んでください。

- 表 2-1 に示すディレクトリにウイルスチェックエンジンを直接組み込む。

ウイルスチェックエンジン：

vsapi32.DLL - Windows NT 版 Server - Scan

libvsapi.1 - HP-UX 版 Server - Scan 用

パターンファイル：lpt\$vpn.nnn (nnn は 3 桁の数字)

- 別ディレクトリにウイルスチェックエンジンを組み込んだ後、Windows NT エクスプローラあるいは cp(1) などを使用して、表 2-1 に示すディレクトリに複写する。

また、使用するシステムが HP-UX 版 Server - Scan の場合、ウイルスチェックエンジン及びパターンファイルを組み込んだ後、組み込んだファイルの属性を次のように変更してください。

- オーナー：Address Server の環境設定で設定したシステム管理者
- グループ：Address Server の環境設定で設定したシステム管理者のグループ
- 権限：-r-xr-xr-x (555)

なお、上記作業はスーパーユーザで実行してください。

表 2-1 ウイルスチェックエンジンの組み込み先

項目	システム	組み込み先ディレクトリ
ウイルス チェックエ ンジン	Windows NT 版	<インストールディレクトリ> ¥TrendMicro¥Engine¥
	HP-UX 版	/opt/SrvScan/TrendMicro/Engine/
パターン ファイル	Windows NT 版	<インストールディレクトリ> ¥TrendMicro¥Pattern¥
	HP-UX 版	/opt/SrvScan/TrendMicro/Pattern/

なお、Server - Scan のインストールディレクトリ下のシステムディレクトリ（上記 TrendMicro も含む）は、Server - Scan のアンインストール操作によってすべて削除されますので注意願います。



## 2.3 Server - Scan のアンインストール

---

### 2.3.1 WindowsNT 版 Server - Scan

アンインストールするとインストール先ディレクトリ直下の「システムのディレクトリ」及び「システムのファイル」はすべて削除されます。システムのディレクトリ下のすべてのディレクトリ及びファイルも削除されます。また、レジストリエントリも削除されます。なお、インストール先ディレクトリは削除されません。また、インストール先ディレクトリ直下のユーザディレクトリ及びユーザファイルは削除されません。

Server - Scan のアンインストールは、次に示すサービスが停止している状態で行ってください。これらのサービスが動作中の状態では、Server - Scan のアンインストールはできません。

- Object Server サービス
- Address Server サービス
- Server - Scan サービス

#### (1) アンインストールの準備

Server - Scan をアンインストールする場合は、その準備処理として次のことを行ってください。

1. Server - Scan によるウイルスチェックを適用していた各 Groupmax アプリケーションサーバの状態を、Server - Scan をアンインストールできる状態にしてください。詳細は「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。
2. vkstat コマンドで、未処理の要求がキューに無いことを確認してください。
3. Server - Scan サービスを停止してください。
4. Address Server サービスを停止してください。
5. Object Server サービスを停止してください。

#### (2) アンインストールの方法

次に、Server - Scan のアンインストール方法を示します。

1. システム管理者のユーザアカウントでログオンします。
2. Windows NT エクスプローラから Server - Scan の INSTALL.EXE を起動します。  
操作環境がチェックされた後、インストールオプションを選択するダイアログが表示されます。

2. Server - Scan のインストールとアンインストール



3. インストールオプションで「削除 (D)」をチェックして「続行 (G)」を選択します。削除確認ダイアログが表示されます。



- 「はい (Y)」を選択します。  
Server - Scan のソフトウェアが削除されます。  
ディレクトリ、ファイル、及びレジストリエントリが削除されます。
4. アンインストールが終了すると、終了確認のダイアログが表示されます。



- 「OK」を選択してアンインストールを終了します。

Server - Scan の環境設定で、作業用フォルダ及び隔離用フォルダをインストールディレクトリとは別のディレクトリに設定していた場合、そのフォルダは Server - Scan のアンインストールでは削除されません。Windows NT エクスプローラなどを使用して削除してください。

## 2.3.2 HP-UX 版 Server - Scan

アンインストールすると次に示すインストール先ディレクトリ以下のディレクトリ及びファイルはすべて削除されます。

- /opt/SrvScan
- /var/opt/SrvScan

Server - Scan のアンインストールは、次に示すサービスが停止している状態で行ってください。これらのサービスが動作中の状態では、Server - Scan のアンインストールはできません。

- Address Server サービス
- Server - Scan サービス

### (1) アンインストールの準備

Server - Scan をアンインストールする場合は、その準備処理として次のことを行ってください。

1. Server - Scan によるウイルスチェックを適用していた各 Groupmax アプリケーションサーバの状態を、Server - Scan をアンインストールできる状態にしてください。詳細は「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。
2. vkstat コマンドで、未処理の要求がキューに無いことを確認してください。
3. Server - Scan サービスを停止してください。
4. Address Server サービスを停止してください。
5. Object Server サービスを停止してください。

### (2) アンインストールの方法

次に、Server - Scan のアンインストール方法を示します。

#### (a) DAT からのアンインストール

次の手順に従ってアンインストールします。

1. Server - Scan のテープを DAT ドライブにセットしてください。
2. スーパーユーザでログインし、「tar xf /dev/rmt/0mn」を実行してください。  
下線部分は環境及び使用する媒体種別によりデバイスファイル名が異なります。使用する環境及び媒体種別に合わせてデバイスファイル名を変更してください。ただし、「/etc/hitachi\_setup」コマンドが、すでにマシン上に展開されている場合は不要です。

## 2. Server - Scan のインストールとアンインストール

3. Hitachi PP Installer である「/etc/hitachi\_setup」を実行します。
4. 「D>Delete Software」を選択します。
5. スペースキーで「Groupmax Server-Scan」を選択し、「D>Delete Software」を選択します。  
アンインストール処理が開始されます。
6. アンインストール処理が完了しましたら、「Q)Quit」を選択して終了します。

### (b) CD-ROM からのアンインストール

次の手順に従ってアンインストールします。

1. マウント用の /cdrom ディレクトリを作成します。「mkdir /cdrom」を実行してください。すでにマウント用ディレクトリが作成済の場合は不要です。
2. Server - Scan の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしてください。
3. CD-ROM をマウントします。「mount /dev/dsk/ctl2d0 /cdrom」を実行してください。既にマウント済の場合は不要です。下線部分は環境によってデバイスファイル名が異なります。使用する環境に合わせてファイル名を変更してください。
4. スーパーユーザでログインし、「/cdrom/HPUX/SETUP /cdrom」を実行してください。
5. 「D>Delete Software」を選択します。
6. スペースキーで「Groupmax Server-Scan」を選択し、「D>Delete Software」を選択します。  
アンインストール処理が開始されます。
7. アンインストール処理が完了しましたら、「Q)Quit」を選択して終了します。

Server - Scan の環境設定で、作業用ディレクトリ及び隔離用ディレクトリをインストールディレクトリとは別のディレクトリに設定していた場合、そのディレクトリは Server - Scan のアンインストールでは削除されません。rm(1) などを使用して削除してください。

# 3

## Server - Scan の環境設定

この章では、Server - Scan の環境設定の方法について説明します。

Server - Scan の環境設定を行なうには、Object Server と Address Server がインストールされている必要があります。また、Server - Scan の環境設定は、Server - Scan のサービスが停止している状態で行ってください。サービスが動作中の状態では環境設定できません。

---

3.1 新規導入時の Server - Scan の環境設定

---

3.2 Server - Scan の環境設定内容の変更

---

3.3 Server - Scan の環境設定中に表示されるメッセージ一覧

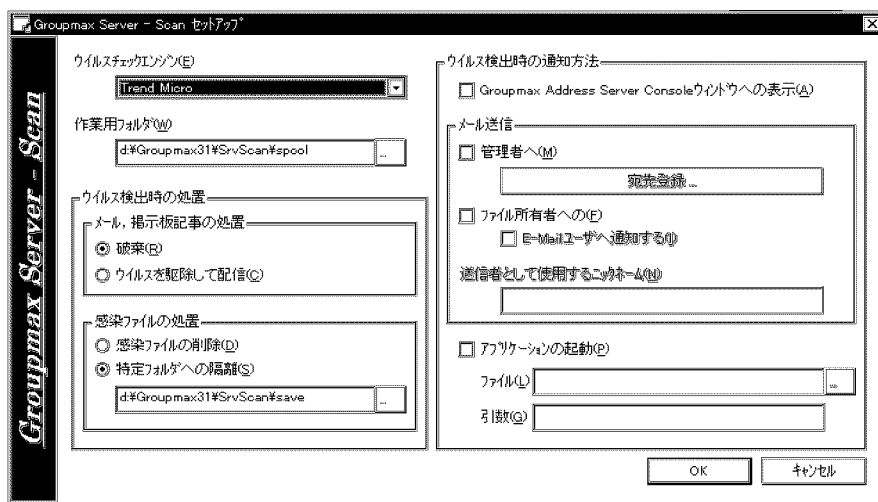
---

## 3.1 新規導入時の Server - Scan の環境設定

### 3.1.1 Windows NT 版 Server - Scan

次の手順に従って Server - Scan の環境を設定してください。

1. システム管理者のユーザアカウントでログオンします。
2. Object Server サービスを起動してください。Object Server サービスの起動方法についてはマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」(Windows 用)を参照してください。  
Object Server サービスが起動されていないと、管理者へのメール宛先の妥当性がチェックできません。
3. 「スタート」メニューの「プログラム」の「Groupmax サーバ」から「Groupmax Server - Scan セットアップ」を選択します。  
Server - Scan セットアップダイアログが表示されます。



4. 使用するウイルスチェックエンジンを選択します。Groupmax Server - Scan Version 7では、トレンドマイクロ社製のウイルスチェックエンジンだけをサポートしています。「Trend Micro」を選択してください。
5. Server - Scan がウイルスチェック処理で使用する作業用フォルダ(ディレクトリ)を次のように指定してください。

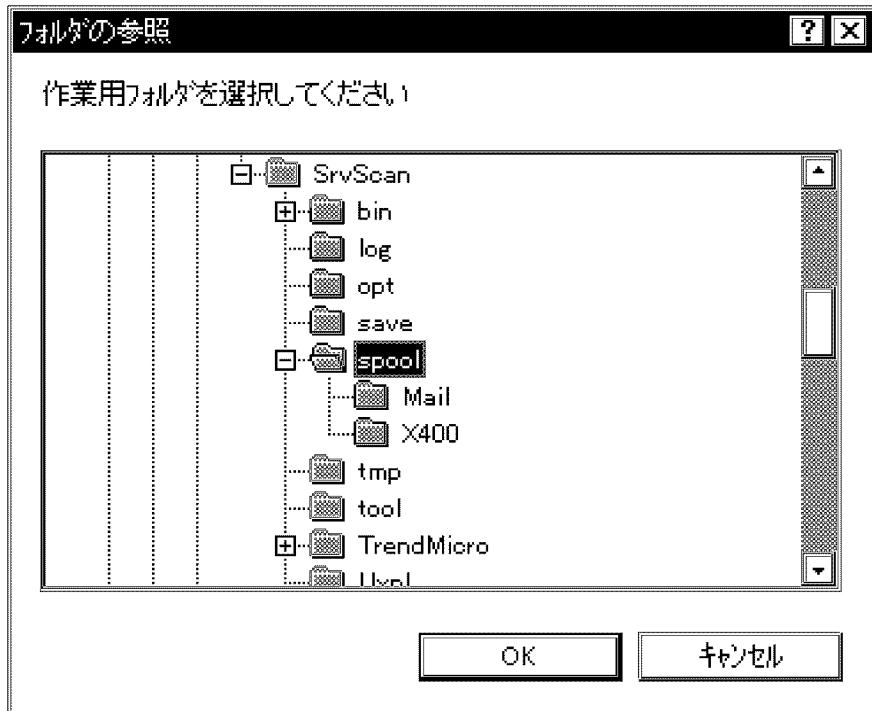
< ディスクのドライブ名 > : ディレクトリ名

デフォルト値として、< Server - Scan インストールディレクトリ > ¥spool が設定されています。

デフォルト値と違う名称を指定する場合は、半角なら 150 文字、全角なら 75 文字以内で指定してください。なお、ディレクトリ名に「全角英大文字」は使用しないでください。

また、指定するディレクトリは作成済みで、かつ空き状態（ディレクトリ下にファイル及びディレクトリが存在しない状態）でなければなりません。

作業用フォルダをデフォルト値以外に設定する場合は、Address Server サービスを停止してください。Address Server サービスが動作中の場合は設定できません。この項目の「参照」ボタンをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



ディレクトリを選択して、「OK」を選択してください。ネットワークコンピュータは表示されますが、選択できません。

#### 6. Server - Scan がウイルス感染ファイルを検出した場合の処置を選択します。

##### 「メール、掲示板記事の処置」

感染ファイルを含むメールあるいは掲示板記事の処置方法を選択します。

##### 「破棄 (R)」

感染ファイルを含むメールあるいは掲示板記事を破棄します。

##### 「ウイルスを駆除して配信 (C)」

感染ファイルからウイルスを駆除して処理（メールの配信あるいは掲示板記事の掲示）を続行します。感染ファイルが圧縮されたファイル中に存在した。あるいは未知なウイルスに感染していた場合、駆除処理は失敗します。この場合、本指定を選択していても「破棄」処理を行います。

##### 「感染ファイルの処置」

検出した感染ファイルを隔離（保存）するか否かを選択します。

##### 「感染ファイルの削除 (D)」

Server - Scan がウイルスチェック処理のためにコピーした感染ファイルを、隔離

### 3. Server - Scan の環境設定

しないで削除します。

#### 「特定フォルダへの隔離 (S)」

Server - Scan がウイルスチェック処理のためにコピーした感染ファイルを、指定したフォルダ (隔離用ディレクトリ) に隔離 (保存) します。

隔離用ディレクトリを次のように指定してください。

<ディスクのドライブ名> : ディレクトリ名

デフォルト値として、< Server - Scan インストールディレクトリ > %save が設定されています。デフォルト値と違う名称を指定する場合は、半角なら 150 文字、全角なら 75 文字以内で指定してください。なお、ディレクトリ名に「全角英大文字」は使用しないでください。また、指定するディレクトリは作成済みで、かつ空き状態 (ディレクトリ下にファイル及びディレクトリが存在しない状態) でなければなりません。この項目の「参照」ボタンをクリックすると、「作業用フォルダ」と同様のディレクトリ選択のダイアログが表示されます。ディレクトリを選択して、「OK」を選択してください。

7. Server - Scan がウイルス感染ファイルを検出した場合の通知方法を選択します。次に示す 4 つの通知方法は、複数個同時に選択することができます。

#### 「Groupmax Address Server Console ウィンドウへの表示 (A)」

Groupmax Address Server Console ウィンドウへ、ウイルス感染ファイルを検出した旨のメッセージを表示します。

この指定をする場合は、Address Server がインストールされていなければなりません。

また、Address Server サービスの「デスクトップとの対話をサービスに許可」を設定してください。

Windows 2008 使用時は、「付録 D.1 Groupmax Address Console ウィンドウの表示」を参照してください。

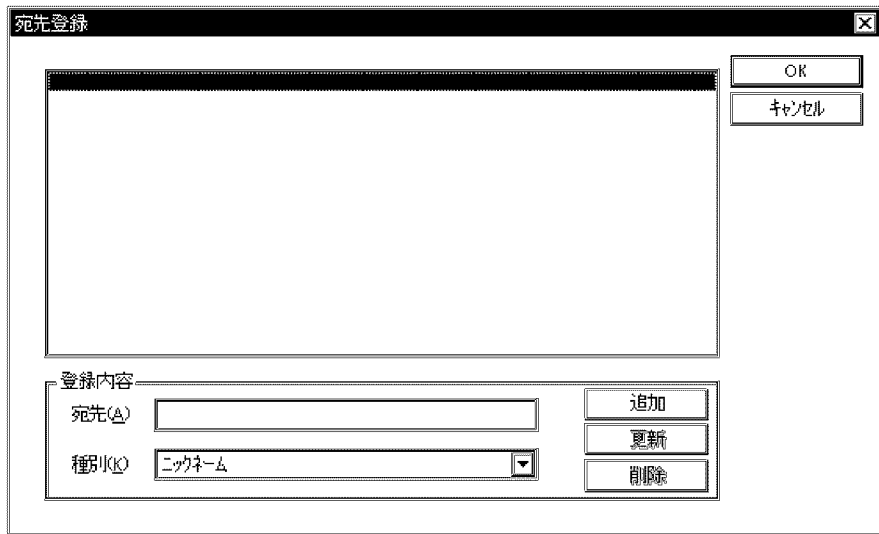
#### 「管理者へ (M)」 (メールの送信)

Mail Server のメール機能を使用して管理者にメールを送信します。

この指定をする場合は、Mail Server がインストールされていなければなりません。

この指定をする場合、「宛先登録 ...」ボタンをクリックしてください。次に示す宛先登録ダイアログが表示されます。





「宛先 (A)」を入力して、「種別 (K)」を選択し、「追加」ボタンを選択してください。

必要な管理者の登録が済んだら、「OK」を選択してください。

#### 「ファイル所有者へ (F)」(メールの送信)

Mail Server のメール機能を使用してファイルの所有者にメールを送信します。この指定をする場合は、Mail Server がインストールされていなければなりません。

ファイルの所有者が E-Mail アドレスのユーザの場合にもメールを送信する場合は、「E-Mail ユーザへ通知する (I)」を設定してください。E-Mail アドレスのユーザへはメールを送信しない場合は、「E-Mail ユーザへ通知する (I)」の設定を解除してください。

#### 「送信者として使用するニックネーム (N)」

Server - Scan がウイルス感染検出通知メールを送信するとき送信者として使用するニックネームを指定します。Server - Scan が存在する Mail Server 上にメールボックスを持つ Server - Scan 専用のユーザを新規に作成し、そのニックネームを指定してください。「管理者へ (M)」及び「ファイル所有者へ (F)」のどちらか一方、又は両方を選択した場合に指定してください。

アドレス管理ドメインが Mail-SMTP を使用している運用の場合 (インターネットや他のアドレス管理メインなどの外部とやりとりがある場合) は、指定するニックネームのユーザには E-Mail アドレスを設定してください。E-Mail アドレスが設定されていないユーザのニックネームを指定すると、E-Mail アドレスの管理者及び E-Mail アドレスのファイル所有者へのウイルス感染検出通知メールは送信されません (「E-Mail ユーザへ通知する (I)」を設定している場合も送信されません)。

#### 注意

### 3. Server - Scan の環境設定

この項目で指定したニックネームのユーザは、Server - Scan がウイルス感染検出通知メールの送受信に使用しますので、通常のメールの送受信には使用しないでください。このニックネームのユーザの送信ログ及び受信メールは、Server - Scan により自動的に削除されます。

#### 「アプリケーションの起動 (P)」

ウイルス感染ファイルの検出をトリガとして、アプリケーションプログラムを起動する場合に、アプリケーションプログラムのファイル名とアプリケーションプログラムに渡す引数を指定してください。なお、ファイル名はフルパス名で指定し、アプリケーションプログラムに渡す引数が存在しない場合は、省略できます。

なお、引数に Server - Scan が用意した変数を指定することにより感染ファイル検出時の詳細情報を、アプリケーションプログラム側で参照することができます。参照方法および指定できる変数は、「付録 C アプリケーションプログラムから参照できる変数名一覧」を参照してください。

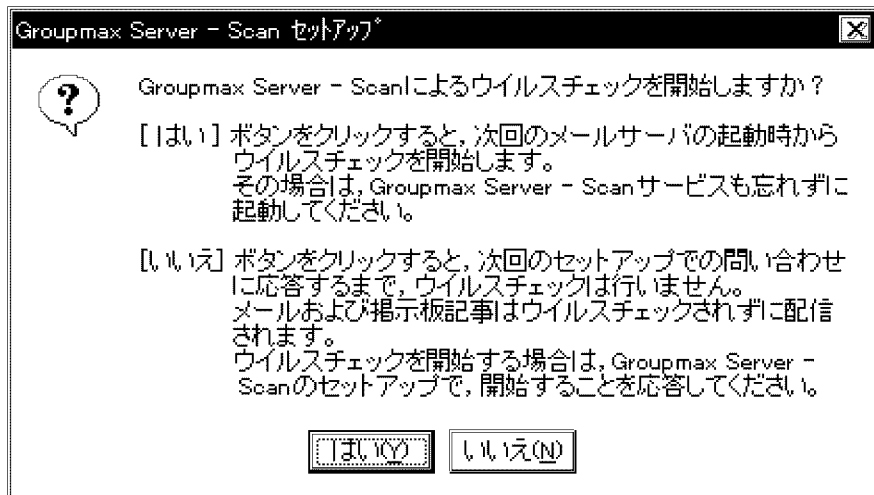
この項目の「参照」ボタンをクリックすると、次に示すダイアログが表示されます。



ファイルを選択して、「開く」を選択してください。

なお、指定したアプリケーションプログラムがダイアログを表示するプログラムの場合、Server - Scan サービスの「デスクトップとの対話をサービスに許可」を設定してください。

8. 「OK」を選択すると有効化オプション選択ダイアログが表示されます。



9. 「はい (Y)」または「いいえ (N)」を選択すると Server - Scan の環境設定を終了します。

Groupmax Server - Scan V3 から Groupmax Server - Scan V5 , V6 または V7 にバージョンアップした場合の注意

ファイル所有者への通知メールの文章をカスタマイズするファイルが継承されません。必要な場合はファイルの内容をコピーしてください。通知メールの形式については付録 A を参照してください。

Server - Scan バージョン	ファイル名	用途
V3	<インストールディレクトリ>%opt%mailmsg.txt	破棄通知
V5 , V6 , V7	<インストールディレクトリ>%opt%jsdmailb.txt	破棄通知
	<インストールディレクトリ>%opt%jscmailb.txt	駆除通知

### 3.1.2 HP-UX 版 Server - Scan

Server - Scan の環境を設定する場合は、Object Server サービスが動作している状態で行なってください。Object Server サービスが起動されていないと、管理者への通知メールの宛先の妥当性がチェックできません。Object Server サービスの起動方法についてはマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

Server - Scan の環境設定完了後、Server - Scan サービスを起動しないで Mail Server を起動すると、メールがウイルスチェック待ちで停止してしまいます。Server - Scan の環

### 3. Server - Scan の環境設定

環境設定を実行した場合は、Mail Server を起動する前に Server - Scan サービスを起動してください。

Groupmax Server - Scan V3 から Groupmax Server - Scan V5, V6 または V7 にバージョンアップした場合の注意

ファイル所有者への通知メールの文章をカスタマイズするファイルが継承されません。必要な場合はファイルの内容をコピーしてください。通知メールの形式については付録 A を参照してください。

Server - Scan バージョン	ファイル名	用途
V3	/var/opt/SrvScan/opt/mailmsg.txt	破棄通知
V5, V6, V7	/var/opt/SrvScan/opt/jdsmaillb.txt	破棄通知
	/var/opt/SrvScan/opt/scmaillb.txt	駆除通知

登録文書をウイルスチェックする場合に、ウイルス検出時の通知方法として「管理者へのメール送信」または「ファイル所有者へのメール送信」の設定で運用する時は、付録 A を参照して通知メールの文章をカスタマイズしてください。

- 設定項目

表 3-1 Server - Scan の環境設定項目

項番	項目	設定内容
1	作業用ディレクトリ名	Server - Scan がウイルスチェック処理で使用する作業用のディレクトリの名称をフルパス名で設定します。
2	ウイルス検出時の処置	ウイルスに感染したファイルを検出した場合の処置方法について設定します。
2.1	メール, 掲示板記事, 登録文書の処置	ウイルスに感染したファイルを含むメール, 掲示板記事及び登録文書中のウイルスに感染しているファイルを「破棄」するか「駆除」かを設定します。
2.2	感染ファイルの処置	ウイルスに感染したファイルを「削除する」か「隔離する」かを設定します。
3	隔離用ディレクトリ名	ウイルスに感染したファイルを隔離するためのディレクトリを設定します。項番 2.2 の設定で「削除する」と設定した場合は、隔離用ディレクトリ名の設定は不要です。
4	ウイルス検出時の通知方法	ウイルスに感染したファイルを検出した場合の通知方法について設定します。
4.1	Groupmax Address Server Console ウィンドウへの表示	ウイルスに感染したファイルを検出した旨のメッセージを、Groupmax Address Server Console ウィンドウへ表示するか否かを設定します。

項番	項目	設定内容
4.2	管理者へのメール送信	ウイルスに感染したファイルを検出した旨のメールを送信する管理者の宛先を設定します。最大 10 件設定できます。E-Mail アドレスの宛先も設定できます。
4.3	ファイル所有者へのメール送信	ウイルスに感染したファイルを検出した旨のメールを、ファイル所有者に送信するか否かを設定します。また、ファイル所有者が E-Mail コーザの場合にメールを送信するか否かを設定します。
4.4	送信者として使用するニックネーム	項番 4.2 または 4.3 でメールを「送信する」と設定した場合、Server - Scan 自身が送信者として使用するニックネームを設定します。このニックネームは、Server - Scan が動作しているサーバの Mail Server にメールボックスを持つユーザとして登録されているニックネームでなければなりません。
4.5	起動するアプリケーションプログラム	ウイルスに感染したファイルを検出した場合に起動するアプリケーションプログラムのファイル名とプログラムに渡す引数を設定します。ファイル名はフルパス名で設定します。アプリケーションプログラムを起動しない場合に設定は不要です。

• 設定手順

次の手順に従って Server - Scan の環境を設定してください。

1. スーパーユーザでログインします。
2. 環境変数を設定します。

環境変数名	設定内容
XODDIR	Object Server のホームディレクトリのフルパス名
XODCONFPATH	Object Server の共通定義ファイル xodrc が格納されているディレクトリのフルパス名

3. GSS\_SETUP コマンドを実行します。

```
# /opt/SrvScan/bin/GSS_SETUP
```

GSS\_SETUP コマンドを実行すると、メッセージが表示され始めます。設定する環境に応じて、メッセージに回答してください。

表示されるメッセージと応答方法を次に示します。

1. KDG300-I Groupmax Server - Scan の環境設定を開始します。  
改行キーを応答してください。項番 3. に進みます。
2. KDG320-I 現在の設定内容は次の通りです。
  - ・ウイルスチェックエンジン：Trend Micro
  - ・作業用ディレクトリ：/var/opt/SrvScan/spool
  - ・ウイルス検出時の処置  
メール、掲示板記事、登録文書の処置：破棄

### 3. Server - Scan の環境設定

感染ファイルの処置：特定ディレクトリへの隔離  
隔離用ディレクトリ：/var/opt/SrvScan/save  
・ウイルス検出時の通知方法  
Groupmax Address Server Consoleウィンドウ  
への表示：No  
管理者へメールを送信                  : No  
ファイル所有者へメールを送信          : No  
送信者として使用するニックネーム： -  
起動するアプリケーション              : -  
表示内容を確認後、改行キーを入力してください。  
=>

改行キーを応答してください。項番 3. に進みます。

#### 3. KDGV301-Q 作業内容を選択してください。[ デフォルト =e]

1 設定情報の変更  
2 設定情報の表示  
e 終了  
=>

1 :  
設定情報を変更します。項番 4. に進みます。

2 :  
現在の設定情報を表示します。項番 20. に進みます。

e :  
GSS\_SETUP コマンドを終了します。

#### 4. KDGV302-Q 変更する情報を選択してください。[ デフォルト =e]

1 ウィルスチェックエンジン  
2 作業用ディレクトリ  
3 ウィルス検出時のメール，掲示板記事，登録文書の処置  
4 ウィルス検出時の感染ファイルの処置  
5 ウィルス検出時の通知方法  
e 終了  
=>

1 :  
使用するウイルスチェックエンジンを変更します。項番 5. に進みます。

2 :  
Server - Scan がウイルスチェック処理で使用する作業用ディレクトリを変更します。項番 6. に進みます。

3 :  
ウイルス検出時のメール，掲示板記事，登録文書の処置を変更します。項番 7. に進みます。

4 :  
ウイルス検出時の感染ファイルの処置を変更します。項番 8. に進みます。

5 :

ウイルス検出時の通知方法を変更します。項番 10. に進みます。

e :

項番 3. に戻ります。

5. KDG303-Q ウィルスチェックエンジンを選択してください。[ デフォルト = ]

1 Trend Micro

=>

使用するウイルスチェックエンジンを選択します。Groupmax Server - Scan Version 6 では、トレンドマイクロ社製のウイルスチェックエンジンだけをサポートしていません。

「Trend Micro」を選択してください。

応答すると項番 4. に戻ります。

6. KDG304-Q 作業用ディレクトリ名を指定してください。改行キーだけを入力すると、  
・ /var/opt/SrvScan/spool  
を仮定します。

=>

Server - Scan がウイルスチェック処理で使用する作業用ディレクトリの名称をフルパス名で指定してください。指定する場合は、半角なら 150 文字、全角なら 75 文字以内で指定してください。また、指定するディレクトリは作成済みで、かつ空き状態（ディレクトリ下にファイル及びディレクトリが存在しない状態）でなければなりません。

作業用ディレクトリを変更する場合は、Address Server サービスを停止してください。

Address Server サービスが動作中の場合は変更できません。

応答すると項番 4. に戻ります。

7. KDG319-Q ウィルス検出時のメール、掲示板記事、登録文書の処置を選択してください。[ デフォルト = ]

1 破棄

2 ウィルスを駆除して配信(駆除失敗時は破棄)

=>

Server - Scan がウイルス感染ファイルを検出した場合の、メール、掲示板記事または登録文書の処置を選択します。

1 :

感染ファイルを含むメール、掲示板記事または登録文書中の感染ファイルを破棄します。

2 :

感染ファイルからウィルスを駆除して処理（メールの配信、掲示板記事の掲示あるいは登録文書の再登録）を続行します。感染ファイルが圧縮されたファイルの中に存在した、あるいは未知なウイルスに感染していた場合、駆除処理は失敗します。この場合、本指定を選択していても「破棄」処理を行います。

### 3. Server - Scan の環境設定

改行キーだけを入力すると「デフォルト = 」に示す値（現在の設定値）を仮定します。  
応答すると項番 4. に戻ります。

#### 8. KDG305-Q ウイルス検出時の感染ファイルの処置を選択してください。[デフォルト = ]

- 1 感染ファイルを削除
  - 2 特定ディレクトリへ隔離
- =>

Server - Scan がウイルス感染ファイルを検出した場合の、感染ファイルの処置を選択します。

1 :

Server - Scan がウイルスチェック処理のためにコピーした感染ファイルを、隔離しないで削除します。項番 4. に戻ります。

2 :

Server - Scan がウイルスチェック処理のためにコピーした感染ファイルを、特定ディレクトリ（隔離用ディレクトリ）に隔離（保存）します。項番 9. に進みます。  
改行キーだけを入力すると「デフォルト = 」に示す値（現在の設定値）を仮定します。

#### 9. KDG306-Q 隔離用ディレクトリ名を指定してください。改行キーだけを入力すると、

- ・ /var/opt/SrvScan/save
- を仮定します。  
=>

隔離用ディレクトリの名称をフルパス名で指定してください。

指定する場合は、半角なら 150 文字、全角なら 75 文字以内で指定してください。また、指定するディレクトリは作成済みで、かつ空き状態（ディレクトリ下にファイル及びディレクトリが存在しない状態）でなければなりません。

応答すると項番 4. に戻ります。

#### 10. KDG307-Q 変更する情報を選択してください。[デフォルト =e]

- 1 Groupmax Address Server Console ウィンドウへの表示
  - 2 管理者へのメール送信
  - 3 ファイル所有者へのメール送信
  - 4 送信者として使用するニックネーム
  - 5 起動するアプリケーションプログラム
- e 終了  
=>

1 :

項番 11. に進みます。

2 :

項番 12. に進みます。

3 :



項番 17. に進みます。

4 :

項番 18. に進みます。

5 :

項番 19. に進みます。

e :

項番 4. に戻ります。

#### 11. KDG308-Q ウイルス検出時に Groupmax Address Server Console ウィンドウへ

メッセージを表示しますか？[デフォルト= ]

- 1 表示する
- 2 表示しない

=>

1 :

Groupmax Address Server Console ウィンドウへ，ウイルス感染ファイルを検出した旨のメッセージを表示します。この指定をする場合は，Address Server がインストールされていないとなりません。

2 :

Groupmax Address Server Console ウィンドウへ，ウイルス感染ファイルを検出した旨のメッセージを表示しません。

改行キーだけを入力すると「デフォルト = 」に示す値（現在の設定値）を仮定します。

応答すると項番 10. に戻ります。

#### 12. KDG309-Q ウイルス検出時に管理者へメールを送信しますか？ [デフォルト = ]

- 1 送信する
- 2 送信しない

=>

1 :

Mail Server のメール機能を使用して管理者にメールを送信します。この指定をする場合は，Mail Server がインストールされていないとなりません。項番 13. に進みます。

2 :

管理者にメールを送信しません。項番 10. に戻ります。

改行キーだけを入力すると「デフォルト = 」に示す値（現在の設定値）を仮定します。

#### 13. KDG310-Q 管理者の宛先の操作種別を選択してください。 [デフォルト =e]

- 1 管理者の宛先を追加
- 2 管理者の宛先を削除
- 3 管理者の宛先一覧を表示
- e 終了

=>

### 3. Server - Scan の環境設定

- 1 :  
管理者の宛先を追加します。項番 14. に進みます。
- 2 :  
管理者の宛先を削除します。項番 15. に進みます。
- 3 :  
管理者の宛先一覧を表示します。項番 16. に進みます。
- e :  
項番 10. に戻ります。

#### 14.KDGV311-Q 追加する管理者の宛先を指定してください。

入力形式 => x,yyyyyyy

x : 種別

- n - ニックネーム
- s - 共用メールボックス
- e - E-Mailアドレス

yyyyyyy : 宛先名

追加する宛先の入力がすべて終わったら、改行キーだけを入力してください。

=>

追加する宛先の種別と名称を半角カンマ (,) で区切って指定してください。このメッセージは繰り返し表示されます。

管理者の宛先は最大 10 件登録できます。

追加する宛先の応答がすべて終わったら、改行キーだけを入力してください。項番 13. に戻ります。

#### 15.KDGV312-Q 削除する管理者の宛先の番号を選択してください。[デフォルト=e]

No. 種別 名称

1 n xxxxxxxx

2 s xxxxxxxx

:

9 e xxxxxxxx

10 n xxxxxxxx

e 終了

=>

削除する宛先の番号を選択してください。このメッセージは繰り返し表示されます。

削除する宛先の応答がすべて終わったら、e を応答してください。項番 13. に戻ります。

#### 16.KDGV313-Q 管理者の宛先一覧は次の通りです。

No. 種別 名称

1 n xxxxxxxx

2 s xxxxxxxx

:

9 e xxxxxxxx

10 n xxxxxxxx

表示内容を確認後、改行キーを入力してください。

=>

改行キーを応答してください。項番 13. に戻ります。

17.KDGV314-Q ウイルス検出時にファイル所有者へメールを送信しますか？ [デフォルト = ]

- 1 送信する(E-Mailユーザを含む)
- 2 送信する(E-Mailユーザは除く)
- 3 送信しない

=>

1 :

Mail Server のメール機能を使用してファイルの所有者にメールを送信します。ファイルの所有者が E-Mail アドレスのユーザの場合にもメールを送信します。この指定をする場合は、Mail Server がインストールされていなければなりません。

2 :

Mail Server のメール機能を使用してファイルの所有者にメールを送信します。ただし、ファイルの所有者が E-Mail アドレスのユーザの場合にはメールを送信しません。この指定をする場合は、Mail Server がインストールされていなければなりません。

3 :

ファイル所有者にメールを送信しません。

改行キーだけを入力すると「デフォルト = 」に示す値（現在の設定値）を仮定します。応答すると項番 10. に戻ります。

18.KDGV315-Q Groupmax Server - Scan が送信者として使用するニックネームを指定してください。

[デフォルト = ]

=>

Server - Scan がウイルス感染検出通知メールを送信するときに送信者として使用するニックネームを指定します。Server - Scan が存在する Mail Server にメールボックスを持つ Server - Scan 専用のユーザを新規に作成し、そのニックネームを指定してください。

管理者及びファイル所有者のどちらか一方、又は両方にウイルス感染検出通知メールを送信する場合に指定してください。

アドレス管理ドメインが Mail-SMTP を使用している運用の場合（インターネットや他のアドレス管理メインなどの外部とやりとりがある場合）は、指定するニックネームのユーザには E-Mail アドレスを設定してください。E-Mail アドレスが設定されていないユーザのニックネームを指定すると、E-Mail アドレスの管理者及び E-Mail アドレスのファイル所有者へのウイルス感染検出通知メールは送信されません。

#### 注意

**この項目で指定したニックネームのユーザは、Server - Scan がウイルス感染検出通知メールの送受信に使用しますので、通常のメールの送受信には使用しないでください。このニックネームのユーザの「送信ログ」及び「受信メール」は、Server - Scan により自動的に削除されます。**

### 3. Server - Scan の環境設定

改行キーだけを入力すると「デフォルト =                   」に示す値（現在の設定値）を仮定します。

応答すると項番 10. に戻ります。

19.KDGV316-Q ウイルス検出時に起動するアプリケーションプログラムを指定してください。

改行キーだけを入力すると、

・ /xxxx/xxxx

を仮定します。起動しない場合はスラッシュ (/) だけを入力してください。

=>

ウイルス感染ファイルの検出をトリガとして、アプリケーションプログラムを起動する場合に、アプリケーションプログラムのファイル名をフルパス名で指定してください。改行キーだけを入力すると、/xxxx/xxxx で示す現在の設定値を仮定します。アプリケーションプログラムを起動しない場合は、スラッシュ (/) だけを入力してください。/xxxx/xxxx にハイフン (-) が表示されている場合は、現在の設定値はアプリケーションプログラムを起動しない設定になっています。

なお、アプリケーションプログラムに渡す引数（オプション）も指定することもできます。引数は、フルパス名の後に 1 個以上の空白を指定した後に指定してください。

また、引数に Server - Scan が用意した変数を指定することにより感染ファイル検出時の詳細情報を、アプリケーションプログラム側で参照することができます。参照方法および指定できる変数は、「付録 C アプリケーションプログラムから参照できる変数名一覧」を参照してください。

ファイル名と引数を合わせた入力可能な最大文字数は、半角換算で 512 文字です。

応答すると項番 10. に戻ります。

20.KDGV320-I 現在の設定内容は次の通りです。

- ・ ウイルスチェックエンジン：Trend Micro
- ・ 作業用ディレクトリ                   : /xxxx/xxxx
- ・ ウイルス検出時の処置  
  メール、掲示板記事、登録文書の処置：破棄  
  感染ファイルの処置               : 特定ディレクトリへの隔離  
  隔離用ディレクトリ               : /var/opt/SrvScan/save

- ・ ウイルス検出時の通知方法  
  Groupmax Address Server Console ウィンドウ  
  への表示：Yes

管理者へメールを送信：Yes

宛先 - No. 種別 名称

1       n   xxxxxxx

2       s   xxxxxxx

:

9       e   xxxxxxx

10      n   xxxxxxx

ファイル所有者へメールを送信

: Yes (E-Mail ユーザを含む)

送信者として使用するニックネーム：xxxxxxx

起動するアプリケーション               : /xxxx/xxxx

表示内容を確認後、改行キーを入力してください。

=>

改行キーを応答してください。項番 3. に戻ります。

## 3.2 Server - Scan の環境設定内容の変更

---

### 3.2.1 Windows NT 版 Server - Scan

環境設定内容を変更する場合は、Object Server サービスが動作している状態で行なってください。Object Server サービスが起動されていないと、管理者への通知メールの宛先の妥当性がチェックできません。Object Server サービスの起動方法についてはマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」(Windows 用)を参照してください。

最初に、「スタート」メニューの「プログラム」の「Groupmax サーバ」から「Groupmax Server - Scan セットアップ」を選択します。

#### (1) 作業用フォルダの変更

作業用フォルダの変更は、Address Server サービスが停止している状態で行ってください。サービスが動作中の状態では、作業用フォルダは変更できません。

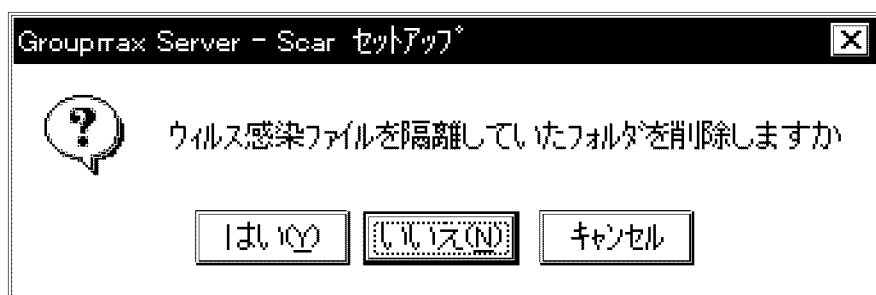
#### (2) ウイルス検出時の処置の変更

- (a) 「感染ファイルの削除 (D)」から「特定フォルダへの隔離 (S)」に変更する場合

「3.1.1 Windows NT 版 Server - Scan」の「特定フォルダへの隔離 (S)」の項を参照してください。

- (b) 「特定フォルダへの隔離 (S)」から「感染ファイルの削除 (D)」に変更する場合

隔離用フォルダに感染ファイルが存在する場合、次に示すダイアログが表示されます。



「はい (Y)」

感染ファイルを削除後、環境設定を終了します。

「いいえ (N)」

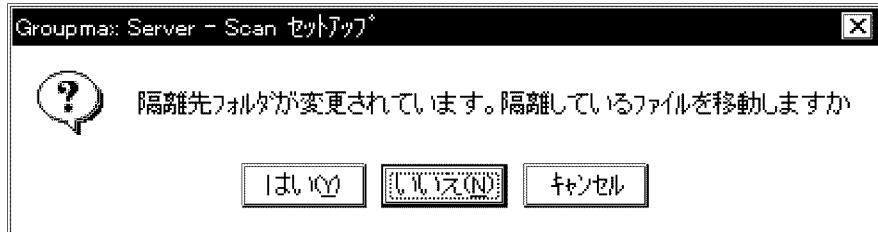
隔離用フォルダを削除しないで環境設定を終了します。

「キャンセル」

Server - Scan セットアップダイアログに戻ります。

(c) 「特定フォルダへの隔離 (S)」でフォルダ名を変更する場合

変更前の隔離用フォルダに感染ファイルが存在する場合、次に示すダイアログが表示されます。



「はい (Y)」

感染ファイルを変更後のフォルダに移動後、環境設定を終了します。

「キャンセル」

Server - Scan セットアップダイアログに戻ります。

「いいえ (N)」

変更前のフォルダはそのままの状態、隔離用フォルダを変更し、環境設定を終了します。

### (3) ウイルス検出時の通知方法の変更

「3.1 新規導入時の Server - Scan の環境設定」の各項を参照してください。

## 3.2.2 HP-UX 版 Server - Scan

環境設定内容を変更する場合は、Object Server サービスが動作している状態で行なってください。

Object Server サービスが起動されていないと、管理者への通知メールの宛先の妥当性がチェックできません。Object Server サービスの起動方法についてはマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

次の手順に従って Server - Scan の環境設定内容を変更してください。

1. スーパーユーザでログインします。
2. 環境変数を設定します。

環境変数名	設定内容
XODDIR	Object Server のホームディレクトリのフルパス名

### 3. Server - Scan の環境設定

環境変数名	設定内容
XODCONFPATH	Object Server の共通定義ファイル xodrc が格納されているディレクトリのフルパス名

3. GSS\_SETUP コマンドを実行します。

```
# /opt/SrvScan/bin/GSS_SETUP
```

GSS\_SETUP コマンドを実行すると、メッセージが表示され始めます。変更する環境設定内容に応じて、メッセージに回答してください。

表示されるメッセージと応答方法を次に示します。

1. KDG300-I Groupmax Server - Scan の環境設定を開始します。

2. KDG320-I 現在の設定内容は次の通りです。

- ・ウイルスチェックエンジン：Trend Micro
- ・作業用ディレクトリ：/xxxx/xxxx
- ・ウイルス検出時の処置  
メール，掲示板記事，登録文書の処置：破棄
- ・感染ファイルの処置：特定ディレクトリへの隔離
- ・隔離用ディレクトリ：/xxxx/xxxx
- ・ウイルス検出時の通知方法

Groupmax Address Server Console ウィンドウ  
への表示：Yes

管理者へメールを送信：Yes

宛先 - No. 種別 名称

```
1 n xxxxxxxx
2 s xxxxxxxx
:
9 e xxxxxxxx
10 n xxxxxxxx
```

ファイル所有者へメールを送信

: Yes (E-Mail ユーザを含む)

送信者として使用するニックネーム：xxxxxxx

起動するアプリケーション：/xxxx/xxxx

表示内容を確認後，改行キーを入力してください。

=>

改行キーを応答してください。項番 3. に進みます。

3. KDG301-Q 作業内容を選択してください。[デフォルト =e]

1 設定情報の変更

2 設定情報の表示

e 終了

=>

1:

設定情報を変更します。項番 4. に進みます。

2:

現在の設定情報を表示します。「3.1 新規導入時の Server - Scan の環境設定」を参照してください。



e :

GSS\_SETUP コマンドを終了します。

4. KDG302-Q 変更する情報を選択してください。[ デフォルト =e]

- 1 ウィルスチェックエンジン
- 2 作業用ディレクトリ
- 3 ウィルス検出時のメール，掲示板記事，登録文書の処置
- 4 ウィルス検出時の通知方法

e 終了

=>

2 :

作業用ディレクトリを変更します。項番 5. に進みます。

3 :

ウィルス検出時の処置を変更します。項番 6. に進みます。

e :

項番 3. に戻ります。

1 および 4 については、「3.1 新規導入時の Server - Scan の環境設定」を参照願います。

5. KDG304-Q 作業用ディレクトリ名を指定してください。改行キーだけを入力すると，

・ /xxxx/xxxx  
を仮定します。

=>

Server - Scan がウィルスチェック処理で使用する作業用ディレクトリの名称をフルパス名で指定してください。"/xxxx/xxxx" は変更前のディレクトリ名です。

指定する場合は，半角なら 150 文字，全角なら 75 文字以内で指定してください。また，指定するディレクトリは作成済みで，かつ空き状態（ディレクトリ下にファイル及びディレクトリが存在しない状態）でなければなりません。

作業用ディレクトリを変更する場合は，Address Server サービスを停止してください。

Address Server サービスが動作中の場合は変更できません。

応答すると項番 4. に戻ります。

6. KDG305-Q ウィルス検出時の処置を選択してください。[ デフォルト = ]

- 1 感染ファイルを削除
- 2 特定ディレクトリへ隔離

=>

1 :

「特定ディレクトリへ隔離」から「感染ファイルを削除」に変更する場合で，変更前の隔離用ディレクトリに感染ファイルが存在する場合は，項番 7. に進みます。隔離用ディレクトリに感染ファイルが存在しない場合は，項番 4. に戻ります。

2 :

### 3. Server - Scan の環境設定

項番 8. に進みます。

e :

項番 4. に戻ります。

改行キーだけを入力すると「デフォルト =                   」に示す値（現在の設定値）を仮定します。

7. KDG317-Q 隔離していたウイルス感染ファイルを削除しますか？ [デフォルト =e]

- 1 削除する
- 2 削除しない
- e 終了

=>

1 :

隔離用ディレクトリ下の感染ファイルを削除し、項番 4. に戻ります。

2 :

隔離用ディレクトリ下の感染ファイルを削除しないで、項番 4. に戻ります。

e :

隔離用ディレクトリ下の感染ファイルを削除しないで、項番 6. に戻ります。

8. KDG306-Q 隔離用ディレクトリ名を指定してください。改行キーだけを入力すると、

・ /xxx/xxx  
を仮定します。  
=>

隔離用ディレクトリの名称をフルパス名で指定してください。"/xxx/xxx" は変更前のディレクトリ名です。指定する場合は、半角なら 150 文字、全角なら 75 文字以内で指定してください。また、指定するディレクトリは作成済みで、かつ空き状態（ディレクトリ下にファイル及びディレクトリが存在しない状態）でなければなりません。

「感染ファイルを削除」から「特定ディレクトリへ隔離」に変更した場合は、項番 4. に戻ります。隔離用ディレクトリの名称を変更した場合で、変更前の隔離用ディレクトリに感染ファイルが存在する場合は、項番 9. に進みます。変更前の隔離用ディレクトリに感染ファイルが存在しない場合は、項番 4. に戻ります。

9. KDG318-Q 隔離していたウイルス感染ファイルを移動しますか？ [デフォルト =e]

- 1 移動する
- 2 移動しない
- e 終了

=>

1 :

感染ファイルを変更後のディレクトリに移動後、隔離用ディレクトリを変更し、項番 4. に戻ります。

2 :

変更前のディレクトリはそのままの状態、隔離用ディレクトリを変更し、項番 4. に戻ります。

e :

変更前のディレクトリはそのままの状態、隔離用ディレクトリを変更せずに、  
項番 6. に戻ります。

## 3.3 Server - Scan の環境設定中に表示されるメッセージ一覧

---

環境設定中に表示されるメッセージについて説明します。

KDGV329-I Groupmax Server - Scan の環境設定を終了します。

要因

メッセージ KDGV301-Q に対して "e" が応答されたため、Server - Scan の環境設定 (GSS\_SETUP コマンド) を終了しました。

対処

対処は不要です。

KDGV330-E スーパーユーザで実行してください。

要因

GSS\_SETUP コマンドをスーパーユーザ以外のユーザで実行しようとしていました。

対処

GSS\_SETUP コマンドは、スーパーユーザで実行してください。

KDGV331-E 標準入出力が端末に割り当てられていません。

対処

標準入力および標準出力を端末にして、GSS\_SETUP コマンドを実行してください。

KDGV332-E Groupmax Object Server がインストールされていません。

対処

Object Server をインストールした後に、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV333-Q Groupmax Object Server サービスが起動されていません。

Groupmax Server - Scan の環境設定をしますか? [デフォルト =e]

1 環境設定を続行する

e 終了

=>

要因

Object Server サービスが起動されていない状態で Server - Scan の環境設定を行なうと、ウイルス検出時に通知する管理者の「宛先」の妥当性がチェックできません。Object Server サービスが起動されている状態で、本メッセージが表示される場合は、環境変数 XODDIR, XODCONFPATH が正しく設定されていない可能性があります。

対処

必要ならば Object Server サービスを起動した後に、Server - Scan の環境設定を行

なってください。又は、環境変数 XODDIR, XODCONFPATH の設定状態を確認してください。

KDGV334-E Groupmax Address Server がインストールされていないため、選択した情報は変更できません。

対処

Address Server をインストールした後に、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV335-E Groupmax Address Server サービスが動作中のため、作業用ディレクトリの変更はできません。

対処

作業用ディレクトリの変更は、Address Server サービスを停止している状態で行なってください。

KDGV336-E Groupmax Mail Server がインストールされていないため、選択した情報は変更できません。

対処

Mail Server をインストールした後に、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV337-E Groupmax Server - Scan サービスが動作中の可能性があります。

ps コマンド (ps -ef|grep vckdemon) で vckdemon プロセスの動作状態を確認してください。

動作中でない場合は、rm コマンドで下記ファイルを削除してください。

- ・インストールディレクトリ /tmp/pidfile

要因

Server - Scan サービスの動作中は Server - Scan の環境設定はできません。

対処

ps -ef | grep vckdemon を実行し、vckdemon プロセスが存在するかを確認してください。vckdemon プロセスが存在する場合は、Server - Scan サービスが動作中です。vckdemon プロセスが存在しない場合は、rm コマンドで /var/opt/SrvScan/tmp/pidfile(HP-UX 版) ファイルを削除した後に、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV338-W ウイルスチェックエンジンが組み込まれていません。

Groupmax Server - Scan サービスを起動する前に組み込んでください。

対処

Server - Scan の環境設定後、Server - Scan サービスを起動する前に、ウイルスチェックエンジンを組み込んでください。

KDGV339-W パターンファイルが組み込まれていません。

Groupmax Server - Scan サービスを起動する前に組み込んでください。

### 3. Server - Scan の環境設定

対処

Server - Scan の環境設定後、Server - Scan サービスを起動する前に、ウイルスチェックエンジンのパターンファイルを組み込んでください。

KDGV340-E Groupmax Server - Scan がインストールされていません。

対処

Server - Scan をインストールした後に、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV341-E GSS\_SETUP コマンドは他で実行中です。

要因

GSS\_SETUP コマンドは、他（のユーザ）で実行中です。GSS\_SETUP コマンドは、同時に複数個を実行することはできません。

対処

他での実行が終了してから実行してください。

KDGV342-E 当該システムのホスト名が取得できませんでした。[errno=nn]

要因

gethostname() 関数による当該システムのホスト名の取得に失敗しました。  
nn：システムが設定したエラーコード（errno）です。

対処

システムのホスト名の設定状態を確認してください。

KDGV343-E Groupmax Address Server の環境設定が行われていません。

要因

Groupmax Address Server の環境設定が行われていません。あるいは Groupmax Address Server が所有する環境情報ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

Groupmax Address Server の環境設定が正しく行われているかを確認してください。正しく行われている場合、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV345-W 環境設定情報ファイルが見つからないか、内容に不正なものがありました。

初期値を表示します。

要因

Server - Scan の環境設定情報ファイルが存在しないか、又は内容に不正なものを検出しました。内容が不正な情報については、システムの初期値を仮定して処理を続行します。

または、Server - Scan をバージョンアップしたため、環境設定情報の不足を検出しました。不足している情報については、システムの初期値を仮定して処理を続行します。

対処

設定内容を確認し、必要ならば設定内容を変更してください。

KDGV350-E 選択内容に誤りがあります。

対処

メッセージに従って正しい文字列を入力してください。

KDGV351-E 指定文字列が長すぎます。

要因

入力した文字列が長すぎます。

対処

メッセージに従って正しい文字列を入力してください。

KDGV352-E 入力形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で入力してください。

KDGV358-E ディレクトリ (ディレクトリ名) は作業用ディレクトリとして不適当です。

要因

- ディレクトリ名で示すディレクトリは、変更前の作業用ディレクトリのサブディレクトリです。
- ディレクトリ名で示すディレクトリは、隔離用ディレクトリです。
- ディレクトリ名で示すディレクトリは、隔離用ディレクトリのサブディレクトリです。

対処

正しいディレクトリ名を入力してください。

KDGV359-E ディレクトリ (ディレクトリ名) は隔離用ディレクトリとして不適当です。

要因

- ディレクトリ名で示すディレクトリは、変更前の隔離用ディレクトリのサブディレクトリです。
- ディレクトリ名で示すディレクトリは、作業用ディレクトリです。
- ディレクトリ名で示すディレクトリは、作業用ディレクトリのサブディレクトリです。

対処

正しいディレクトリ名を入力してください。

KDGV360-E ディレクトリはフルパス名で指定してください。

要因

入力した文字列が、'/' で始まっていません。

対処

'/' で始まるフルパス名でディレクトリ名を入力してください。

KDGV361-E ディレクトリ (ディレクトリ名) は存在しません。

要因

ディレクトリ名で示す名称のディレクトリは存在しません。

### 3. Server - Scan の環境設定

対処

作成済みのディレクトリ名を入力してください。

KDGV362-E ディレクトリ (ディレクトリ名) は空き状態ではありません。

要因

ディレクトリ名で示すディレクトリの下には、ファイル又はディレクトリが存在します。

対処

空き状態のディレクトリ名を入力してください。

KDGV363-E (ディレクトリ名) はディレクトリではありません。

対処

作成済みのディレクトリ名を入力してください。

KDGV364-E ディレクトリ (ディレクトリ名) にアクセスできません。(関数名, errno=nn)

要因

ディレクトリ名で示すディレクトリへ、関数名で示す関数 (又はシステムコール) でアクセスした際、nn で示す errno のエラーが発生しました。

対処

関数 (又はシステムコール) 名、および errno から障害要因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV365-E 管理者の宛先は 1 件も登録されていません。

対処

ウイルス検出時に管理者へメールを送信する場合は、管理者の宛先を登録してください。

KDGV366-E 管理者の宛先は登録可能な最大件数 (n 件) まで登録済みです。

対処

必要ならば、不要な管理者宛先を削除してから、新しい管理者宛先を登録してください。

KDGV367-Q 管理者の宛先 (宛先名) は Groupmax Mail Server に登録されていません。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

1 登録する

2 登録しない

=>

対処

Mail Server に登録済みの宛先に変更してください。又はこのまま登録した後で、Server - Scan サービスを起動する前に、宛先名で示す宛先を Mail Server に登録してください。

KDGV368-E 管理者の宛先 (宛先名) はメールアドレスを持っていません。



対処

メールアドレスを持っている宛先を指定してください。

KDGV369-Q Groupmax Object Server で障害が発生したため、管理者の宛先 (宛先名) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

- 1 登録する
- 2 登録しない

=>

対処

環境設定を中止して、Object Server で発生した障害を調査してください。

KDGV370-Q Groupmax Address Server の環境設定が行われていないため、管理者の宛先 (宛先名) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

- 1 登録する
- 2 登録しない

=>

対処

Address Server の環境設定を行なった後で、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV371-Q メモリ不足のため管理者の宛先 (宛先名) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

- 1 登録する
- 2 登録しない

=>

対処

十分なメモリを確保後、再実行してください。

KDGV372-Q 内部障害 (エラーコード) が発生したため管理者の宛先 (宛先名) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

- 1 登録する
- 2 登録しない

=>

対処

### 3. Server - Scan の環境設定

障害受付窓口に連絡してください。

KDGV373-Q ニックネーム (ニックネーム) は Groupmax Mail Server に登録されていません。

このまま、登録しますか? [デフォルト=2]

1 登録する

2 登録しない

=>

対処

Mail Server に登録済みのニックネームに変更してください。又はこのまま登録した後で、Server - Scan サービスを起動する前に、ニックネームで示すニックネームを Mail Server に登録してください。

KDGV374-Q ニックネーム (ニックネーム) には E-Mail アドレスが設定されていません。

このまま、登録しますか? [デフォルト=2]

1 登録する

2 登録しない

=>

対処

E-Mail アドレスの管理者、又はファイル所有者へウイルス検出通知メールを送信する必要がない場合は、このまま登録してください。E-Mail アドレスの管理者、又はファイル所有者へウイルス検出通知メールを送信する必要がある場合は、E-Mail アドレスが設定されているニックネームに変更してください。又は、このまま登録した後で、Server - Scan サービスを起動する前に、ニックネームで示すニックネームに E-Mail アドレスを設定してください。

KDGV375-Q ニックネーム (ニックネーム) の送受信メールボックスにメールがあります。

これらの既存のメールはシステムにより削除されます。

このまま、登録しますか? [デフォルト=2]

1 登録する

2 登録しない

=>

要因

指定したニックネームの送受信メールボックスに既存のメールが存在します。

対処

Server - Scan 用に新たなニックネームを Mail Server に登録し、そのニックネームを指定してください。又は、送受信メールボックスの既存のメールが、Server - Scan により削除されてもかまわないメールの場合は、このまま登録してください。

KDGV376-E ニックネーム (ニックネーム) はメールアドレスを持っていません。

対処

メールアドレスを持っているニックネームを指定してください。

KDGV377-Q Groupmax Object Server で障害が発生したため、ニックネーム (ニックネーム) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

1 登録する

2 登録しない

=>

対処

環境設定を中止して、Object Server で発生した障害を調査してください。

KDGV378-Q Groupmax Address Server の環境設定が行われていないため、ニックネーム (ニックネーム) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

1 登録する

2 登録しない

=>

対処

Address Server の環境設定を行なった後で、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV379-Q メモリ不足のためニックネーム (ニックネーム) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

1 登録する

2 登録しない

=>

対処

十分なメモリを確保後、再実行してください。

KDGV380-Q 内部障害 (エラーコード) が発生したためニックネーム (ニックネーム) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか? [デフォルト =2]

1 登録する

2 登録しない

### 3. Server - Scan の環境設定

=>

対処

障害受付窓口にご連絡してください。

KDGV381-Q アプリケーションプログラム (ファイル名) は存在しません。

このまま、登録しますか? [デフォルト=2]

1 登録する

2 登録しない

=>

要因

ファイル名で示すアプリケーションプログラム (ファイル) は存在しません。

対処

このまま登録する場合は、Server - Scan サービスを起動する前に、ファイル名で示すアプリケーションプログラム (ファイル) を作成してください。

KDGV382-E アプリケーションプログラムはフルパス名で指定してください。

要因

入力した文字列が、'/' で始まっていません。

対処

'/' で始まるフルパス名でアプリケーションプログラム名を入力してください。

KDGV383-E (ファイル名) はファイルではありません。

対処

アプリケーションプログラムのファイル名を、フルパス名で入力してください。

KDGV384-E ファイル (ファイル名) にアクセスできません。(関数名 ,errno=nn)

要因

ファイル名で示すファイルへ、関数名で示す関数 (又はシステムコール) でアクセスした際、nn で示す errno のエラーが発生しました。

対処

関数 (又はシステムコール) 名、および errno から障害要因を取り除いてください。  
ユーザでの対応ができない場合は、障害受付窓口にご連絡してください。

KDGV385-E 管理者の宛先 (宛先名) の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式の宛先を指定してください。

KDGV386-E 送信者として使用するニックネームが設定されていません。

管理者又はファイル所有者へメールを送信する場合は、送信者として使用するニックネームの設定が必要です。

対処

送信者として使用するニックネームを設定してください。又は、管理者及びファイル所有者へのメール送信をしないように設定を変更してください。

KDGV387-Q Groupmax Object Server が起動されていないため、管理者の宛先 ( ) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか？ [デフォルト =2]

- 1 登録する
- 2 登録しない

=>

対処

Object Server サービスを起動した後で、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV388-Q Groupmax Object Server が起動されていないため、ニックネーム (ニックネーム) の妥当性チェックができませんでした。

このまま、登録しますか？ [デフォルト =2]

- 1 登録する
- 2 登録しない

=>

対処

Object Server サービスを起動した後で、Server - Scan の環境設定を行なってください。

KDGV389-E 管理者の宛先 (宛先名) は登録済みです。

要因

登録済みの管理者の宛先が指定されました。

対処

登録されている管理者の宛先を確認してください。

KDGV390-E ファイルシステムの空きスペース不足のため、ファイルの移動に失敗しました。

(移動元ファイル名, 移動先ファイル名)

要因

移動先のファイルシステムの空きスペースが不足したため、ファイルの移動ができませんでした。

対処

移動先のファイルシステム内の不要なファイルを削除した後、cp(1) などを使用して移動に失敗したファイルおよびディレクトリを移動してください。

KDGV391-E ファイル (ファイル名 1) の移動に失敗しました。[[ファイル名 2,] 関数名 ,errno=nn)]

### 3. Server - Scan の環境設定

#### 要因

ファイル名 1 で示すファイルを移動する際、ファイル名 2 で示すファイルに対して関数名で示す関数（又はシステムコール）でアクセスした際、nn で示す errno のエラーが発生しました。メッセージ中にファイル名 2 が表示されていない場合は、ファイル名 1 で示すファイルに対するアクセスでエラーが発生しました。また、([ファイル名 2,] 関数名 ,errno=nn) が表示されていない場合は、ファイル名 1 が一般ファイル及びディレクトリ以外のために移動に失敗しました。

#### 対処

関数（又はシステムコール）名、および errno から障害要因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV392-E ファイル ( ファイル名 ) の削除に失敗しました。( 関数名 ,errno=nn)

#### 要因

ファイル名で示すファイルを削除する際、関数名で示す関数（又はシステムコール）で、nn で示す errno のエラーが発生しました。

#### 対処

関数（又はシステムコール）名、および errno から障害要因を取り除いてください。障害要因を取り除いた後、rm(1) などを使用して削除に失敗したファイルを削除してください。ユーザでの対応ができない場合は、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV393-E ディレクトリ ( ディレクトリ名 ) の削除に失敗しました。( 関数名 ,errno=nn)

#### 要因

ディレクトリ名で示すディレクトリを削除する際、関数名で示す関数（又はシステムコール）で、nn で示す errno のエラーが発生しました。

#### 対処

関数（又はシステムコール）名、および errno から障害要因を取り除いてください。障害要因を取り除いた後、rmdir(1) などを使用して削除に失敗したディレクトリを削除してください。ユーザでの対応ができない場合は、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV396-E 環境情報ファイル ( ファイル名 ) を作成できませんでした。( 関数名 ,errno=nn)

#### 要因

ファイル名で示す環境情報ファイルを作成する際、関数名で示す関数（又はシステムコール）で、nn で示す errno のエラーが発生しました。

#### 対処

関数（又はシステムコール）名、および errno から障害要因を取り除いてください。障害要因を取り除いた後、環境設定を行なってください。ユーザでの対応ができない場合は、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV399-E 内部障害が発生しました。( 障害情報 1[, 障害情報 2[, 障害情報 3[, 障害情報 4[, 障害情報 5]]]])

#### 要因

コマンド内部で障害が発生しました。

対処

メッセージ中に表示されている障害情報から障害要因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV420-E ニックネーム (ニックネーム) は他の Groupmax Mail Server に登録されているニックネームです。Groupmax Server - Scan が送信者として使用するニックネームには、当該 Groupmax Mail Server に登録されているニックネームを指定してください。

対処

Server - Scan が送信者として使用するニックネームには、当該 Mail Server にメールボックスを持つユーザとして登録されているニックネームを指定してください。





# 4

## Server - Scan の運用

この章では、Server - Scan の運用方法について説明します。

---

4.1 Server - Scan サービスの起動

---

4.2 Server - Scan サービスの停止

---

4.3 ウイルス感染ファイル検出時の対処方法

---

4.4 ウイルスチェックエンジンおよびパターンファイルの更新方法

---

4.5 各種障害発生時の対処方法

---

4.6 Server - Scan 運用時の注意事項

---

## 4.1 Server - Scan サービスの起動

---

### 4.1.1 Windows NT 版 Server - Scan

Server - Scan のサービスの起動手順を以下に示します。

1. システム管理者のユーザアカウントによるログオン
2. Object Server サービスの起動
3. Address Server サービスの起動
4. Server - Scan サービスの起動
5. Groupmax アプリケーションサーバの起動

Server - Scan は Windows NT のサービスとして動作します。Windows NT では、サービスの起動を手動又は自動に設定できます。

Object Server サービスの起動方法についてはマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」(Windows 用)、Address Server サービスの起動方法についてはマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。また、Groupmax アプリケーションサーバの起動方法については「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。

ここでは、Server - Scan サービスの起動方法について説明します。なお、Server - Scan をインストールした直後、サービスの起動は「手動」に設定されています。

#### (1) 手動で起動するように設定されている場合

1. コントロールパネルからサービスを開きます。
2. 「Server - Scan」サービスを選択します。
3. 「開始」を選択します。

#### (2) 自動で起動するように設定されている場合

マシンを立ち上げると自動的に起動します。

#### (3) 起動の設定を変更する場合

##### (a) サービスの起動を「自動」に設定する

Server - Scan サービスを自動で起動するときは、必ず Address Server サービスも自動で起動する設定にしてください。

1. コントロールパネルからサービスを開きます。
2. 「スタートアップの種別」を「自動」にします。
3. 「OK」を選択します。

次にマシンを起動するときから、Server - Scan サービスが自動的に起動されます。

(b) サービスの起動を「手動」に設定する

Server - Scan サービスを手動で起動する設定にするときは、Address Server サービスの起動は手動と自動のどちらでもかまいません。

1. コントロールパネルからサービスを開きます。
2. 「スタートアップの種別」を「手動」にします。
3. 「OK」を選択します。

なお、Server - Scan の環境設定の「ウイルス検出時の通知方法」で「アプリケーションの起動」を選択し、起動するアプリケーションがダイアログを表示するプログラムの場合は、Server - Scan サービスの「デスクトップとの対話をサービスに許可(L)」を設定してから Server - Scan サービスを起動してください。

## 4.1.2 HP-UX 版 Server - Scan

Server - Scan のサービスの起動手順を以下に示します。Server - Scan サービスの起動はシステムの運用設定時だけでなく通常運用時にも必要です。Server - Scan サービスの起動は、GSS\_START コマンドを実行することを意味します。

1. システム管理者でログイン
2. Object Server サービスの起動
3. Address Server サービスの起動
4. Server - Scan サービスの起動
5. Groupmax アプリケーションサーバの起動

Object Server サービスの起動方法についてはマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」、Address Server サービスの起動方法についてはマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。また、Groupmax アプリケーションサーバの起動方法については「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。

ここでは、Server - Scan サービスの起動方法について説明します。

1. システム管理者 (Address Server の環境設定で設定したシステム管理者) でログインします。
2. GSS\_START コマンドを実行します。  

```
# /opt/SrvScan/bin/GSS_START
```

なお、GSS\_START コマンドの詳細については「7. コマンドリファレンス」を参照してください。

## 4.2 Server - Scan サービスの停止

---

### 4.2.1 Windows NT 版 Server - Scan

Server - Scan のサービスの停止について説明します。

1. システム管理者のユーザアカウントによるログオン
2. Server - Scan によるウイルスチェックを適用している Groupmax アプリケーションサーバの停止
3. Server - Scan サービスの停止

Groupmax アプリケーションサーバの停止方法については「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。

Server - Scan サービスは次の手順で停止してください。

1. コントロールパネルからサービスを開きます。
2. 「Server - Scan」サービスを選択します。
3. 「停止」を選択します。

「状態」欄が空白の場合は、サーバは停止しています。

#### 注意

- サーバマシンの Windows NT をシャットダウンする前に、必ず Server - Scan サービスを停止してください。
- Server - Scan によるウイルスチェックを適用している Groupmax アプリケーションサーバを停止しないで、Server - Scan サービスを停止すると、その Groupmax アプリケーションサーバの機能が停止する場合があります。  
例えば、Server - Scan によるウイルスチェックを適用している Mail Server を停止しないで、Server - Scan サービスを停止すると、メールの配信等がウイルスチェック待ちで停止してしまいます。この場合は、再度 Server - Scan サービスを起動してください。Mail Server の配信処理が再開されます。詳細は、「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。  
Server - Scan の環境設定内容の変更や、ウイルスチェックのエンジンファイルの更新のために、一時的に Server - Scan のサービスを停止させる場合は、Groupmax アプリケーションサーバを停止させる必要はありません。但しこの場合でも、Server - Scan のサービス停止中は、Server - Scan によるウイルスチェックを適用している Groupmax アプリケーションサーバの機能は停止します。そのため、Server - Scan の環境設定内容の変更や、ウイルスチェックのエンジンファイルの更新も、極力 Groupmax アプリケーションサーバを運用していない時間帯に行なうことを推奨します。

## 4.2.2 HP-UX 版 Server - Scan

Server - Scan のサービスの停止手順を以下に示します。Server - Scan サービスの停止はシステムの運用設定時だけでなく通常運用時にも必要です。Server - Scan サービスの停止は、GSS\_STOP コマンドを実行することを意味します。

1. システム管理者でログイン
2. Server - Scan によるウイルスチェックを適用している Groupmax アプリケーションサーバの停止
3. Server - Scan サービスの停止

Groupmax アプリケーションサーバの停止方法については「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。

Server - Scan サービスは次の手順で停止してください。

1. システム管理者 (Address Server の環境設定で設定したシステム管理者) でログイン
2. GSS\_STOP コマンドを実行します。

```
# /opt/SrvScan/bin/GSS_STOP
```

なお、GSS\_STOP コマンドの詳細については「7. コマンドリファレンス」を参照してください。

### 注意

- サーバマシンの HP-UX をシャットダウンする前に、必ず Server - Scan サービスを停止してください。
- Server - Scan によるウイルスチェックを適用している Groupmax アプリケーションサーバを停止しないで、Server - Scan サービスを停止すると、その Groupmax アプリケーションサーバの機能が停止する場合があります。  
例えば、Server - Scan によるウイルスチェックを適用している Mail Server を停止しないで、Server - Scan サービスを停止すると、メールの配信等がウイルスチェック待ちで停止してしまいます。この場合は、再度 Server - Scan サービスを起動してください。Mail Server の配信処理が再開されます。詳細は、「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。  
Server - Scan の環境設定内容の変更や、ウイルスチェックのエンジンファイルの更新のために、一時的に Server - Scan のサービスを停止させる場合は、Groupmax アプリケーションサーバを停止させる必要はありません。但しこの場合でも、Server - Scan のサービス停止中は、Server - Scan によるウイルスチェックを適用している Groupmax アプリケーションサーバの機能は停止します。そのため、Server - Scan の環境設定内容の変更や、ウイルスチェックのエンジンファイルの更新も、極力 Groupmax アプリケーションサーバを運用していない時間帯に行なうことを推奨します。
- 登録文書のウイルスチェックが完了していない状態で、Groupmax Document Manager のサービスを停止しないでください。

## 4.3 ウイルス感染ファイル検出時の対処方法

---

Server - Scan でウイルスに感染、あるいはウイルスチェックエンジンが未サポート形式のためウイルスチェックに失敗（感染していないことを保証できない）したファイルを検出した場合の対処方法について説明します。

Groupmax アプリケーションサーバ固有の対処方法については「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。

### (1) 検出時の通知

Server - Scan はウイルスに感染、あるいはウイルスチェックに失敗したファイルを検出した場合に、自動的に管理者やファイルの所有者に通知する機能を提供しています。通知手段を次に示します。詳細は「3. Server - Scan の環境設定」を参照してください。

- Groupmax Address Server Console ウィンドウへのメッセージ出力（管理者用）
- Groupmax のメール機能による通知（管理者及びファイル所有者用）
- ユーザ作成アプリケーションプログラムの起動（管理者用）

### (2) ファイル所有者への対処方法

感染ファイルのオリジナルは、Groupmax クライアントのユーザ、又は E-Mail などの外部のユーザが持っています。メールなどの通知手段でファイル所有者に通知し、ファイル所有者がワクチンソフトなどでウイルスを駆除するか、ファイルを削除する必要があります。

Groupmax アプリケーションサーバが保持しているファイルについては「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。

### (3) 隔離したファイルの扱い

Server - Scan ではウイルスに感染、あるいはウイルスチェックに失敗したファイルのコピーを隔離（保存）する機能を提供しています。Server - Scan の環境設定でウイルス検出時の処置として「特定ディレクトリへの隔離」を選択した場合には、ウイルスに感染、あるいはウイルスチェックに失敗したファイルのコピーを、環境設定で指定した特定ディレクトリ（隔離用ディレクトリ）へ隔離します。

隔離用ディレクトリには次の形式で格納されます。

表 4-1 隔離用ディレクトリの形式

ファイル名	内容
<隔離用ディレクトリ> ¥APIDnnnnnnnnnn¥感染ファイル名 .virus <sup>1</sup> または <隔離用ディレクトリ> /APIDnnnnnnnnnn/ 感染ファイル名 .virus <sup>2</sup>	ウイルスに感染したファイルのコピーです。オリジナルのファイル名称に拡張子として ".virus" が付加されます。
<隔離用ディレクトリ> ¥APIDnnnnnnnnnn¥チェック失敗 ファイル名 .error <sup>1</sup> または <隔離用ディレクトリ> /APIDnnnnnnnnnn/ チェック失敗 ファイル名 .error <sup>2</sup>	ウイルスチェックに失敗したファイルのコピーです。オリジナルのファイル名称に拡張子として ".error" が付加されます。
<隔離用ディレクトリ> ¥APIDnnnnnnnnnn¥vakzin.txt <sup>1</sup> または <隔離用ディレクトリ> /APIDnnnnnnnnnn/vakzin.txt <sup>2</sup>	上記ファイルの感染あるいはチェック失敗内容の説明文が格納されたテキストファイルです。

1 : Windows NT 版の場合のファイル名です。

2 : HP-UX 版の場合のファイル名です。

APID は感染ファイルを検出した Groupmax アプリケーションのサーバ識別子です。

X400 : Group Mail , MAIL : Group Mail , DOCM : Groupmax Document Manager

nnnnnnnnnn は Server - Scan が自動的に割り当てた 10 けたの数字です。

感染ファイル名またはチェック失敗ファイル名までのフルパス名の長さが 250 バイトを超える場合は、250 バイトでカットされ、".virus" または ".error" が付加されます。

同名のファイルがある場合、".virus" または ".error" の後ろに番号が付加されます。

これらのファイルは、ウイルス感染に関する詳細な調査をする場合に使用します。

これらのファイルは、Server - Scan が自動的に削除することはありません。したがって、隔離用ディレクトリの状態を定期的に監視し、不要なファイルを削除してください。放置すると隔離用ディレクトリが存在するディスクがディスクフルとなってしまいます。なお、隔離用ディレクトリを削除する場合は、Server - Scan サービスを停止してください。

## 4.4 ウイルスチェックエンジンおよびパターンファイルの更新方法

---

### (1) ウイルスチェックエンジンの更新方法

新しいウイルスチェックエンジンの組み込みは、「2.2 ウイルスチェックエンジンの組み込み」を参照してください。ウイルスチェックエンジンの更新は、Server - Scan のサービス動作中には行えません。Server - Scan サービスを停止してからウイルスチェックエンジンを更新してください。サービスの停止については「4.2 Server - Scan サービスの停止」を参照してください。

ウイルスチェックエンジンを更新した場合はできるだけ早い時期に、チェック済みのファイルも含めてサーバ内の既存ファイルを、新しいウイルスチェックエンジンでチェックすることを推奨します。その方法は「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。

### (2) パターンファイルの更新方法

新しいパターンファイルの組み込みは、「2.2 ウイルスチェックエンジンの組み込み」を参照してください。パターンファイルの更新は、Server - Scan サービスの動作中に行えます。Server - Scan が用意したパターンファイル組み込みディレクトリ下に新しいパターンファイルを複写してください。Server -Scan は約 5 分間隔でパターンファイルの状態を監視しているため、自動的にパターンファイルの更新を検知し使用するパターンファイルを変更します。

なお、Server - Scan のパターンファイルの自動変更が成功した場合にはメッセージ KDGV201-I が、失敗した場合にはメッセージ KDGV202-I が出力されますので、サービスの動作中にパターンファイルを更新した場合には、必ずメッセージを確認してください。

パターンファイルを更新した場合はできるだけ早い時期に、チェック済みのファイルも含めてサーバ内の既存ファイルを、新しいパターンファイルでチェックすることを推奨します。その方法は「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。



## 4.5 各種障害発生時の対処方法

### (1) Server - Scan サービスを監視する方法

#### (a) メッセージファイルによる監視

Server - Scan サービスは異常を検知すると、異常に関するメッセージを Server - Scan のログディレクトリ<sup>1</sup>下のメッセージファイル (errormsg.txt) に出力します。このメッセージファイルの内容を確認することにより、Server - Scan サービスの障害発生状況を監視できます。

#### (b) Groupmax Address Server Console ウィンドウによる監視

Server - Scan サービスは、メッセージファイルに出力するエラーメッセージを、Groupmax Address Server Console ウィンドウへも表示します。従って Groupmax Address Server Console ウィンドウを表示させておくことにより、Server - Scan サービスの障害発生状況を監視できます。

エラーメッセージを Groupmax Address Server Console ウィンドウへ表示させるためには、Server - Scan の環境設定の「ウイルス検出時の通知方法」で「Groupmax Address Server Console ウィンドウへの表示」を選択しておかなければなりません。詳細は「3.1 新規導入時の Server - Scan の環境設定」を参照してください。

なお、Groupmax Address Server Console ウィンドウを表示する方法については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

### (2) Server - Scan サービスが異常終了した場合

- Server - Scan サービスを再起動してください。再度異常終了する場合は、ログディレクトリ<sup>1</sup>下のメッセージファイル (errormsg.txt) 及びログファイル (vakzinlog.txt) を採取し、障害受付窓口に連絡してください。

1：ログディレクトリは以下の通りです。

- Server - Scan (Windows NT 版): <インストールディレクトリ> \log
- Server - Scan (HP-UX 版): /var/opt/SrvScan/log/

### (3) ディスクフルとなった場合

#### (a) インストールディレクトリが存在するディスクがディスクフルとなった場合

- インストールディレクトリが存在するディスク内の不要なファイルを削除してください。
- 作業用ディレクトリ及び隔離用ディレクトリをインストールディレクトリ内に設定してある場合は、作業用ディレクトリ及び隔離用ディレクトリを、空き容量に余裕があるほかのディスクに変更してください。作業用ディレクトリ及び隔離用ディレクトリの変更は「3.2 Server - Scan の環境設定内容の変更」を参照してください。

#### 4. Server - Scan の運用

- (b) 作業用ディレクトリが存在するディスクがディスクフルとなった場合
- 作業用ディレクトリが存在するディスク内の不要なファイルを削除してください。
  - 作業用ディレクトリを、空き容量に余裕があるほかのディスクに変更してください。作業用ディレクトリの変更は「3.2 Server - Scan の環境設定内容の変更」を参照してください。
- (c) 隔離用ディレクトリが存在するディスクがディスクフルとなった場合
- 隔離用ディレクトリが存在するディスク内の不要なファイルを削除してください。
  - 隔離用ディレクトリ内の不要なファイルを削除してください。
  - 隔離用ディレクトリを、空き容量に余裕があるほかのディスクに変更してください。隔離用ディレクトリの変更は「3.2 Server - Scan の環境設定内容の変更」を参照してください。

## 4.6 Server - Scan 運用時の注意事項

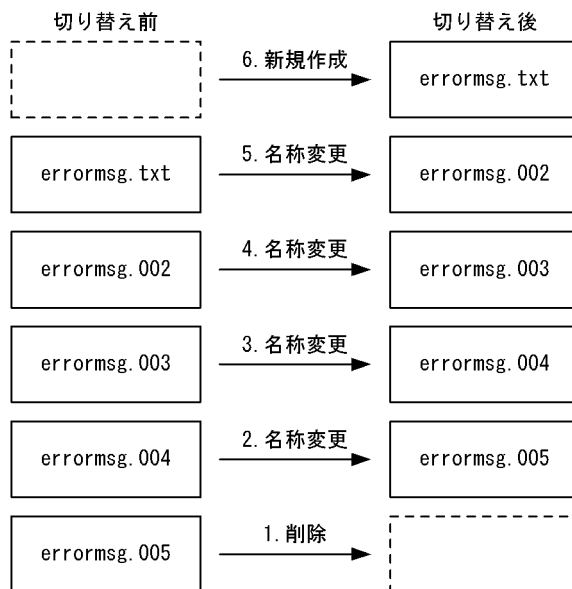
### (1) メッセージファイルについて

Server - Scan の環境設定のウイルス検出時の通知方法で、「Groupmax Address Server Console ウィンドウへの表示」を選択しないで「管理者へのメール通知」などのほかの項目だけ選択した場合は、「ウイルス検出通知メッセージ以外の各種障害メッセージ」も「Groupmax Address Server Console ウィンドウ」へ表示されません。その場合は、Server - Scan のメッセージファイルの内容を適宜チェックして、Server - Scan で障害が発生していないかチェックしてください。

環境設定のウイルス検出時の通知方法で、「Groupmax Address Server Console ウィンドウへの表示」を選択した場合は、ウイルス検出通知メッセージ以外の各種障害メッセージも Groupmax Address Server Console ウィンドウへ表示されますので、Server - Scan の障害は Groupmax Address Server Console ウィンドウで監視してください。

なお、メッセージファイル `errormsg.txt` は容量が 1M バイトに達すると、ファイルが切り替えられます。

図 4-1 メッセージファイルの切り替え



### (2) 他のワクチンソフト (ウイルス駆除ソフト) との共存について

Server - Scan を組み込んだシステムに、他のワクチンソフトを組み込んで運用することは可能です。但し、次に示す制限事項があります。

- Server - Scan の「作業用ディレクトリ下のファイル」に対して、ワクチンソフトの駆

#### 4. Server - Scan の運用

除機能を実行してはいけません。ワクチンソフトで駆除してしまうと、Server - Scan がウイルス感染ファイルを正しく検出できなくなり、ウイルスに感染した添付ファイルを持つメールなどは、そのまま配信されてしまいます。ワクチンソフトのチェック機能（駆除しない）は実行してもかまいません。

- Server - Scan でウイルスチェックを行う Groupmax アプリケーションサーバの使用するディレクトリに対してワクチンソフトの駆除機能を実行してはいけません。ワクチンソフトで駆除してしまうと、配信処理がエラーになり、それ以降の配信処理が滞留してしまう場合があります。ワクチンソフトで駆除対象から外す必要のあるディレクトリに関しては、Server - Scan でウイルスチェックを行う Groupmax アプリケーションサーバのマニュアルや ReadMe 等を参照してください。

#### (3) Mail Server の稼動中バックアップとの競合について

Mail Server 側で稼動中バックアップを実行する場合、特に Server - Scan サービスを停止する必要はありません。

Mail Server のバックアップは各ユーザあるいは組織のメールボックス単位で行われます。今まさにバックアップ対象になっているメールボックスと、ウイルスチェック中のメールが存在するメールボックスが重ならない限り正常にウイルスチェック処理が行えます。もし重なった場合、ウイルスチェック処理は一時的に失敗します。しかし、一定時間の経過後に再試行を行いメールあるいは掲示板記事のウイルスチェック処理を完了させます。

# 5

## Server - Scan のクラスタ環境での設定と運用

この章では、Server - Scan をクラスタ環境で使用するための設定について説明します。

---

### 5.1 Windows NT 版 Server - Scan

## 5.1 Windows NT 版 Server - Scan

---

### 5.1.1 クラスタ環境で使用するための条件

クラスタ環境で使用するための条件を次に示します。

- Windows NT Server , Enterprise Edition が両方のノード（マシン）にインストールされている。
- Microsoft Cluster Server が両方のノードにインストールされている。
- クラスタの環境設定が完了している。
- 両方のノードに Groupmax アプリケーションサーバがインストールされている。
- Groupmax アプリケーションサーバのクラスタ環境が設定されている。

### 5.1.2 クラスタ環境の新規設定

Server - Scan のインストールと環境設定の手順を次に示します。

1. ノード 1 から共有ディスクに Server - Scan をインストールします。
2. ノード 2 から共有ディスクに Server - Scan をインストールします。ノード 1 のインストール時に指定したディレクトリを指定してください。
3. ウイルスチェックエンジンとしてトレンドマイクロ社製のウイルスチェックエンジンを使用する場合、ノード 2 でウイルスチェックエンジン及びパターンファイルを、Server - Scan のインストールディレクトリに組み込みます。ウイルスチェックエンジン及びパターンファイルの組み込み方法については「2.2 ウイルスチェックエンジンの組み込み」を参照してください。
4. ノード 2 で Server - Scan の環境設定を実行してください。この時「作業用フォルダ」と「ウイルス検出時の隔離用フォルダ」は、共有ディスクに設定してください。
5. Server - Scan セットアップダイアログの「OK」で環境設定を完了してください。以上で Server - Scan の環境設定まで完了しました。続いて Server - Scan をクラスタリソースに追加します。
6. クラスタアドミニストレータで、Server - Scan をインストールした共有ディスク、および作業用フォルダと隔離用フォルダを設定した共有ディスクが存在するグループを選択します。
7. クラスタアドミニストレータの「ファイル」メニューの「新規作成」をクリックし、次に「リソース」をクリックします。
8. このグループのリソースとして Server - Scan を追加します。追加方法を次に示します。
  - リソースの種類として「汎用サービス」を選択します。
  - リソースの名前は任意に設定してください。例えば「Groupmax Server - Scan」を設定してください。
  - Address Server に対して依存関係を設定してください。なお、サービス名に

「GroupmaxVCK」を入力します。

9. リソースウィザードを完了します。  
以上でリソースの追加まで完了しました。
10. Server - Scan サービスを起動してください。
11. サービスが起動されたことを確認してください。
12. フェールオーバができるかどうか確認してください。

### 5.1.3 クラスタ環境の新規設定時の注意事項

Server - Scan はノード 1 とノード 2 が 1 対 1 で、片方が待機している状態だけをサポートします。

### 5.1.4 既存環境からのクラスタ環境への変更

既存の Server - Scan 環境をクラスタ環境に設定するときは、旧環境を削除後、新規に設定してください。既存の環境を直接クラスタ環境に設定変更することはできません。

### 5.1.5 クラスタ環境のアンインストール

アンインストールの手順を次に示します。

1. Server - Scan によるウイルスチェックを適用していた各 Groupmax アプリケーションサーバの状態を、Server - Scan をアンインストールできる状態にしてください。詳細は「6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用」を参照してください。
2. vkstat コマンドで、未処理の要求がキューに無いことを確認してください。
3. Server - Scan サービスを停止してください。
4. Address Server サービスを停止してください。
5. Object Server サービスを停止してください。
6. ノード 1 で Server - Scan をアンインストールしてください。
7. ノード 2 で Server - Scan をアンインストールしてください。なお、「インストール先ディレクトリが存在しないため、削除できません。」のメッセージが表示されますが、無視して削除してください。

### 5.1.6 フェールオーバした時の注意事項

特にありません。





# 6

## Groupmax アプリケーション サーバの設定と運用

この章では、各 Groupmax アプリケーションサーバに Server - Scan によるウイルスチェックを適用して運用するための、設定と運用方法について説明します。

---

6.1 Mail Server の設定と運用

---

6.2 Document Manager の設定と運用

---

## 6.1 Mail Server の設定と運用

---

### 6.1.1 Mail Server でのウイルスチェックの概要

サードパーティ製ワクチンソフト（ウイルスチェックエンジン）と Server-Scan を設定して導入しますと、メール及び記事によるウイルス感染の拡大を防ぐことが可能です。チェックを行う対象を表 6-1 に示します。

以下の対象データで感染ファイルが検出された場合、Server - Scan 環境設定の「メール、掲示板記事の処置」の設定により「破棄」または「駆除」を行います。

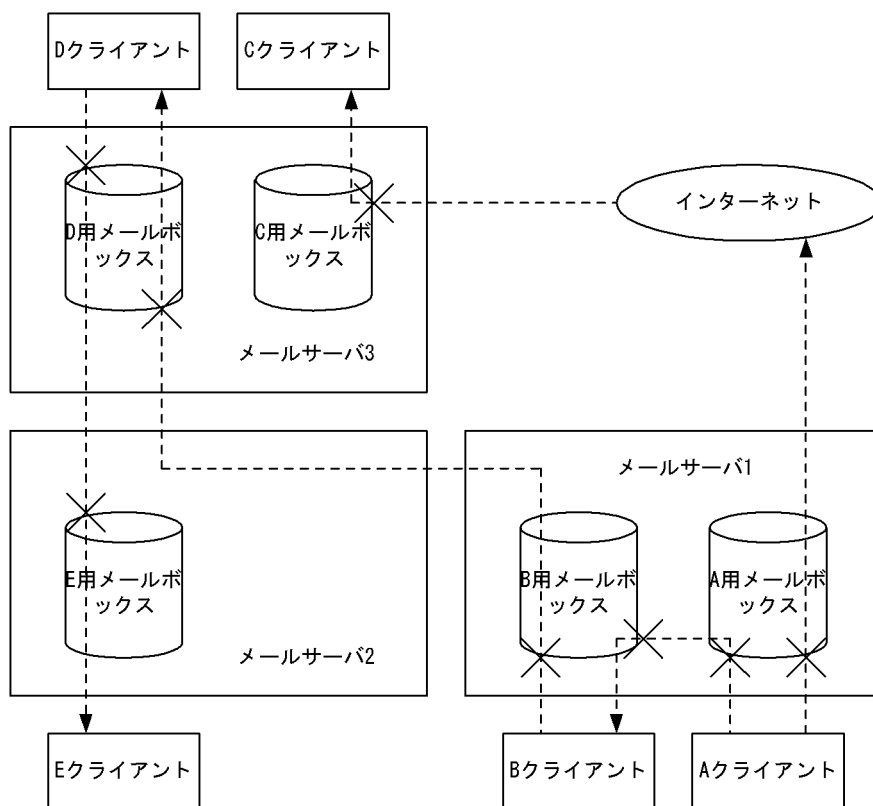
表 6-1 対象データ

#	対象データ
1	送信メール
2	保留メール <sup>1</sup>
3	掲示記事
4	送信回覧メール
5	回覧メール回送時の変更添付ファイル <sup>1</sup>
6	受信メール

1：本データは Server - Scan の設定に依存せず常に「破棄」を行います。

基本的にはウイルスチェックは、メールボックスへの格納前に行われます。チェック場所（×印）を図 6-1 に示します。

図 6-1 ウイルスチェックの場所



ウイルスチェックを行わない場合の送信系データは図 6-2 のように遷移します。ウイルスチェックを行う場合の送信系データは図 6-3 のように遷移します。

6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用

図 6-2 ウイルスチェックがない場合の遷移

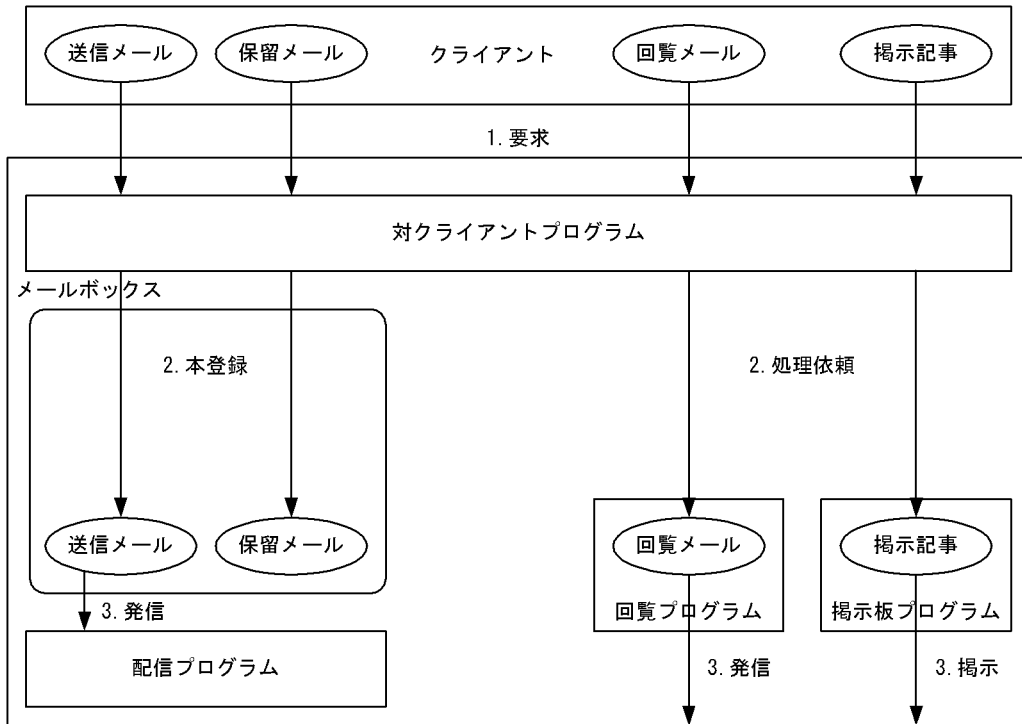
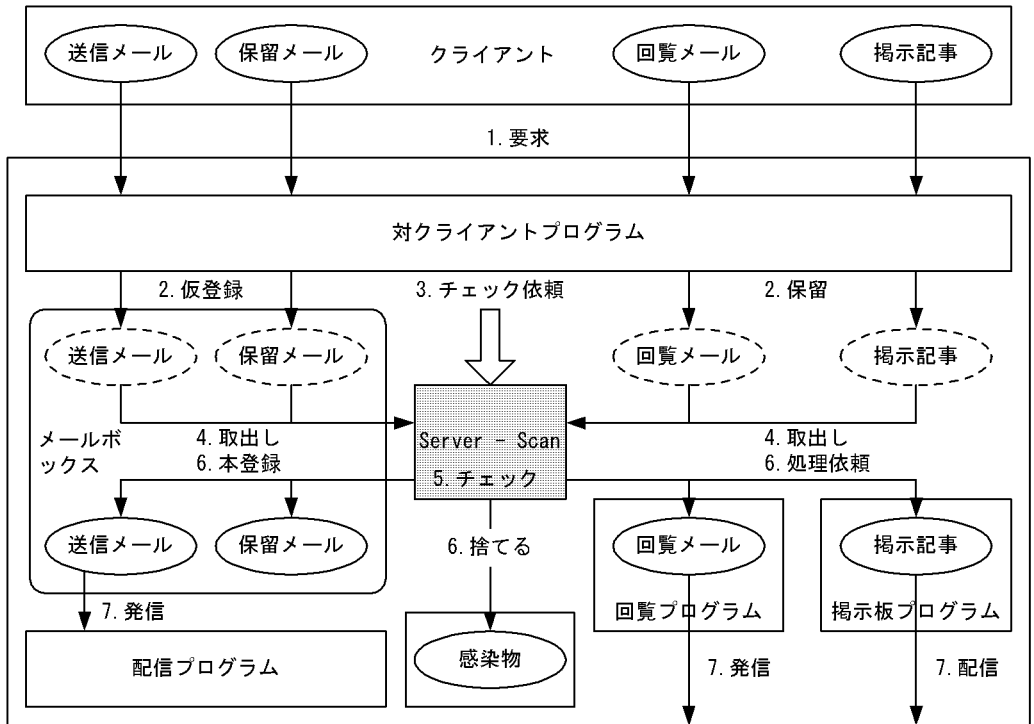


図 6-3 ウイルスチェックがある場合の遷移



ウイルスチェックを行わない場合の受信系データは図 6-4 のように遷移します。ウイルスチェックを行う場合の受信系データは図 6-5 のように遷移します。

図 6-4 ウイルスチェックがない場合の遷移

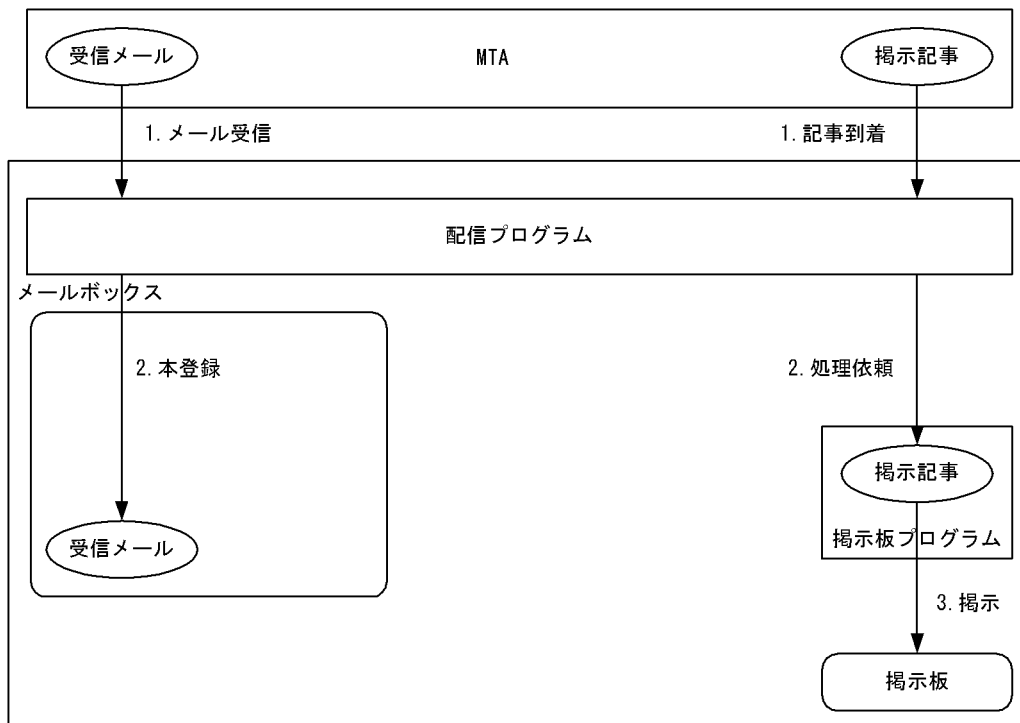
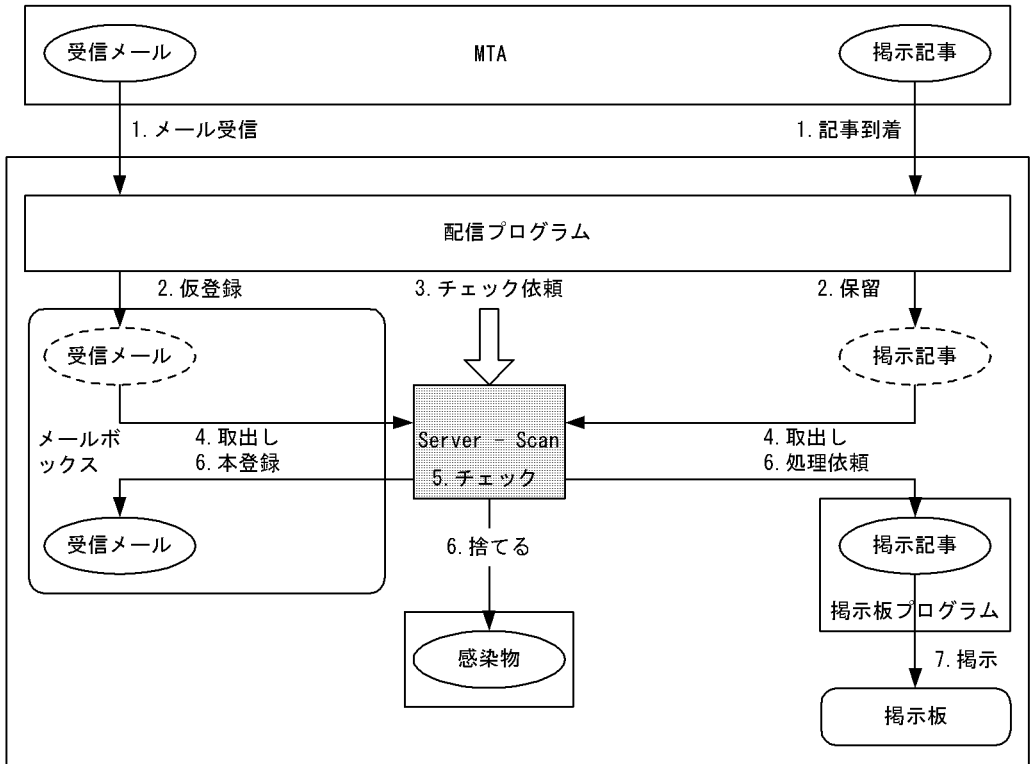


図 6-5 ウイルスチェックがある場合の遷移



## 6.1.2 環境設定の方法

Mail Server でウイルスチェックを行う場合は、アドレス管理ドメイン内のすべてのメールサーバに Server - Scan を設定・導入してください。

### (1) Mail Server を新規に導入する

アドレス管理ドメインを新規に構築する，又はアドレス管理ドメインにメールサーバが存在しない状態からメールサーバを設定する場合には，以下のような手順で設定してください。

1. メールサーバにするアドレスサーバに Server - Scan をインストール及び環境設定を行います。
2. アドレスサーバに対して「メール設定」を行い，メールサーバを構築します。
3. メールサーバを起動します。

Mail Server は Server - Scan の存在を自動的に検出して動作します。

### (2) 既存のメールサーバに Server - Scan を導入する

既存のメールサーバに Server - Scan を導入する場合の設定手順を以下に示します。

## 6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用

1. 設定するメールサーバに Server - Scan をインストール及び環境設定を行います。
2. Server - Scan サービスを起動します。
3. Address Server サービスを起動します。メールサーバは起動しないでください。
4. メールサーバが停止している状態で、mlreqvk コマンドを -a オプションで実行します。ただし、メールユーザ・アドレス組織が現在保有する既存のメール、記事に対してウイルスチェックを行わない場合は、本作業は不要です。
5. 既存のメール / 記事に対するチェックが完了したかどうかを vkstat コマンドで確認します。
6. メールサーバを起動します。

### (3) 運用上のお願い

メールサーバを起動する時には、Server - Scan サービスが必ず起動しているようにしてください。起動していないと Server - Scan に対するチェック依頼中のメールや記事が蓄積され、メールの送受信や記事の掲示がすべて停止します。

## 6.1.3 ユーザ移動時の影響

### (1) 移動元メールサーバのメールの扱い

SAVE\_MB コマンドでメールを保存した場合

SAVE\_MB コマンドを実行しますと、そのメールボックスは閉塞されます。

メールボックス閉塞中に Server - Scan のチェックが完了しても、メールの状態はチェック完了にはなりません。送信メールの場合は、受信者に対して配信されません。ユーザ移動を行わずに閉塞を解除した場合には、閉塞中にチェックをしようとしたメールを再度チェック依頼します。送信メールの再依頼されるタイミングは、閉塞解除後にこのユーザが最初にメールを送信した時です。受信メールの再依頼されるタイミングは、閉塞解除後にこのユーザが最初にメールを受信した時です。このため閉塞を解除した時は、自分から自分にメールを 1 通送信することを推奨します。

SAVE\_MB コマンドでメールを保存しなかった場合

チェック依頼中にメールボックスが削除された場合は、Server - Scan はチェック完了後にメールボックスが存在しないことを検知します。メールボックスがないためメールの状態をチェック完了にすることはできません。送信メールの場合は、受信者に対して配信されません。

### (2) 移動先メールサーバのメールの扱い

LOAD\_MB コマンドでメールを回復した場合

移動元で閉塞される前にチェックが完了し保存されたメールは、移動先ではチェックしません。

移動元でチェックが完了する前に SAVE\_MB コマンドで閉塞し保存されたチェック依頼中の状態のメールは、移動先で再度チェック依頼します。送信メールの再依頼されるタイミングは、LOAD\_MB コマンド実行後にこのユーザが最初にメールを送信した



時です。受信メールの再依頼されるタイミングは、LOAD\_MB コマンド実行後にこのユーザが最初にメールを受信した時です。このため LOAD\_MB コマンドを実行した時は、自分から自分にメールを 1 通送信することを推奨します。

### 6.1.4 感染メール / 掲示記事の扱い

Server - Scan 側の環境設定「メール、掲示板記事の処置」の設定により扱いは異なります。「駆除」が選択されている場合、メール / 掲示記事からウイルスを駆除（悪い部分のみを削り取る）し、駆除後のメール / 掲示記事と従来のものと置き換えます。「破棄」が選択されている、あるいは駆除処理に失敗した場合、以下のようになります。

mlreqvk コマンドによりチェック依頼された送信メールの場合

いままで送信ログで確認できたウイルスに感染されたメールは、メールボックスから削除されます。つまり、送信ログで確認できなくなります。

上記以外の通常チェック依頼された送信メールの場合

ウイルスに感染されたメールは、送信ログ上に表示されることなくメールボックスから削除されます。メールも受信者に配信されません。

mlreqvk コマンドによりチェック依頼された受信メールの場合

いままで受信一覧で確認できたウイルスに感染されたメールは、メールボックスから削除されます。つまり、受信一覧で確認できなくなります。

上記以外の通常チェック依頼された受信メールの場合

ウイルスに感染されたメールは、受信一覧上に表示されることなくメールボックスから削除されます。メール送信者には、メール受信不可の報告（「6.1.5 感染時の通知」で示すメールではなく、送信ログ上のメールのプロパティで確認できる状態用のもの）が返ります。

mlreqvk コマンドによりチェック依頼された掲示記事の場合

いままで掲示板から参照できていたウイルスに感染された記事は、掲示板から削除されます。つまり、掲示板から参照できなくなります。

記事掲示操作時にチェック依頼された掲示記事の場合

ウイルスに感染された掲示記事は、掲示板に掲示されることなく削除されます。

### 6.1.5 感染時の通知

メールがウイルスに感染していた場合に所有者に通知する場合は、Server - Scan の環境設定で「ファイル所有者へのメール送信」を設定する必要があります。

ファイル所有者へのメール送信が設定されている場合の通知メールの宛先を次に示します。

送信メールの場合

表 6-2 通知先宛先（送信）

	対象	宛先
1	ユーザの送信メール（リモート PC は含む，POP3/IMAP4 は除く）	送信ユーザ
2	組織（共用メールボックス）の送信メール（リモート PC は含む，POP3/IMAP4 は除く）	送信組織（共用メールボックス）
3	ユーザの掲示記事	掲示ユーザ
4	組織（共用メールボックス）の掲示記事	掲示組織（共用メールボックス）
5	組織（共用メールボックス）の保留メール	保留組織（共用メールボックス）
6	ユーザの送信回覧メール	回覧送信ユーザ
7	ユーザの回覧メールの添付ファイル変更（回送時）	回覧回送ユーザ
8	運転席メールの転送メール	送信ユーザ

## 受信メールの場合

表 6-3 通知先宛先（受信）

	対象	宛先
1	ユーザの受信メール（回覧メールを含む）	実受信者（ユーザ） <sup>1</sup> と送信者 <sup>2</sup>
2	組織（共用メールボックス）の受信メール	実受信者（共用メールボックス） <sup>1</sup> と送信者 <sup>2</sup>
3	回覧メールボックスに届いた回覧メール	送信者
4	回覧メールボックスに届いた回送メール	送信者

1：通常チェックでウイルス駆除に成功した場合，通知メールではなく駆除後のメールが届きます。

2：アドレス管理ドメインに所属しない送信者に対しても通知します。

## 6.1.6 暗号化・デジタル署名したメールの送受信

S/MIME 機能を使用してセキュリティを強化した暗号化・デジタル署名したメールで，ウイルスに感染した添付ファイルを送受信した場合の扱いを次に示します。

表 6-4 暗号化・デジタル署名したメールの扱い

	メールの形式	Server - Scan の設定	メールの処置
1	通常形式	破棄	破棄
		駆除	駆除
2	マルチパート署名形式（復号化）	破棄	破棄

	メールの形式	Server - Scan の設定	メールの処置
	したデータを添付ファイルにつけると メールサーバで設定)	駆除	
3	マルチパート署名形式(復号化した データを添付ファイルに	破棄	破棄 又は 配信(検出できな い場合) <sup>1</sup>
	つけないとメールサーバで設定)	駆除	
4	署名データ形式	破棄	破棄 又は 配信(検出できな い場合) <sup>1</sup>
		駆除	
5	暗号化したメール	破棄	配信  (検出できないため)
		駆除	

<sup>1</sup> : ウイルスチェックエンジンがサポートしているメールの形式により異なります。  
詳細は、ウイルスチェックエンジン提供元へ確認願います。

## 6.1.7 こんなときには

### (1) インターネットなどの外部と接続していない運用の場合

Mail Server のウイルスチェックは図 6-1 で示した通り、送信と受信の両方で行います。

しかし、アドレス管理ドメインが Mail - SMTP を使用しない(インターネットや他のアドレス管理ドメイン等の外部とのやりとりがない)運用の場合は、送信と受信の両方でチェックを行うのは無駄です。このため、送信だけチェックを行う設定を用意しています。

Mail Server のオプションファイル <sup>1</sup> に次のキーワードを記述してください。なお、本キーワードはサーバ起動時に参照しますので、変更した場合はメールサーバの停止と再起動が必要です。

送信のチェックだけを行う場合のキーワード

**VIRUS\_CHECK\_POINT=S**

<sup>1</sup> : Mail Server のオプションファイルは以下の通りです。

- Windows NT 版 : < Mail Server インストールディレクトリ >  
¥nxcdir¥gmpublicinfo
- HP-UX 版 : /var/opt/GroupMail/nxcdir/gmpublicinfo

### (2) Address Server , Mail Server のバックアップデータをリストアした場合

バックアップのタイミングにより、ウイルスチェック依頼中の状態でバックアップされるメールがあると思います。この状態のメールはリストア後に、再度チェック依頼します。送信メールの再依頼されるタイミングは、リストア後にこのユーザが最初にメール

## 6. Groupmax アプリケーションサーバの設定と運用

を送信した時です。受信メールの再依頼されるタイミングは、リストア後にこのユーザが最初にメールを受信した時です。このためリストアした時は、全員が自分から自分にメールを1通送信することを推奨します。

### (3) メールサーバから Server - Scan をアンインストールする場合

アドレス管理ドメインに複数のメールサーバが存在する場合に、1台だけ Server - Scan をアンインストールするとセキュリティホールになるので注意してください。

以下にアンインストール時の手順を示します。

1. Server - Scan サービスを起動させておいてください。
2. メールサーバを停止します。Address Server サービスは起動させておいてください。
3. チェック依頼中のメールがなくなるのを待ってください。依頼中のメールがあるかどうかは、vkstat コマンドで確認してください。
4. Server - Scan をアンインストールしてください。
5. mlcnclvk コマンドを実行してください。

### (4) Mail Server をアンインストールする場合

Mail Server の通常アンインストール作業を行ってください。

### (5) Server - Scan のサービスが停止していた場合

Mail Server は、Server - Scan サービスの起動状態に関係なく、ウイルスチェック依頼を行います。メールサーバはチェック済みのメールしか配信を行いませんので、Server - Scan が停止中は、送信ログ、又は受信一覧に、新たにメールが表示されることはありません。

メールの送受信を再開する方法は、Server - Scan のサービスを起動するか、Mail Server のオプションファイル <sup>1</sup> に次のキーワードを記述してチェックを抑止してください。なお、本キーワードはサーバ起動時に参照しますので、変更した場合はメールサーバの停止と再起動が必要です。

チェックを抑止する場合のキーワード  
**VIRUS\_CHECK\_POINT=N**

### (6) チェックでエラーになった場合

Server - Scan のチェック処理が障害で完了しなかったメールは、再度チェックします。送信メールの再依頼されるタイミングは、障害発生後にこのユーザが最初にメールを送信した時です。受信メールの再依頼されるタイミングは、障害発生後にこのユーザが最初にメールを受信した時です。

### (7) ウイルスチェックエンジンまたはパターンファイルを更新した場合

ウイルスチェックエンジンまたはパターンファイルを更新して既存のメールのチェック

を再度実行する場合は、以下の手順を行ってください。

1. Address Server サービスは起動した状態で、メールサーバを停止します。
2. mlreqvk コマンドを -a オプションで実行します。
3. 既存のメール/記事に対するチェックが完了したかどうか vkstat コマンドで確認します。
4. メールサーバを起動します。

mlreqvk -a コマンドを実行すると全てのメール、記事、回覧をウイルスチェックするため、処理にかなりの時間がかかります。メールサーバを停止して支障のない休日などに実行することを推奨します。

## 6.2 Document Manager の設定と運用

---

Document Manager の設定と運用手順については、Groupmax Document Manager のマニュアル及びソフトウェア添付資料を参照してください。

# 7

## コマンドリファレンス

この章では Server - Scan で使用する各コマンドについて説明します。

- 
- 7.1 概要
  - 7.2 GSS\_START
  - 7.3 GSS\_STOP
  - 7.4 vkstat
  - 7.5 mlreqvk
  - 7.6 mlcnclvk
  - 7.7 mlcnsvk
-

## 7.1 概要

---

この章では Server - Scan が提供する、各コマンドについて説明します。説明するコマンドは次のとおりです。

### GSS\_START

Server - Scan サービスを起動します。

### GSS\_STOP

Server - Scan サービスを停止します。

### vkstat

ウイルスチェックキューの状態を表示します。

### mlreqvk

ウイルスチェック要求を一括して依頼します。

### mlenclvk

Server - Scan がアンインストールされた場合に実行するコマンドです。

### mlensvk

メールボックス内に存在する不正メールの検出及び削除を行うコマンドです。

コマンドが不当にエラーとなりユーザでの対応が不可な場合、次に示すログディレクトリ下のメッセージファイル (errormsg.txt) 及びログファイル (vakzinlog.txt) を採取し障害受付窓口に連絡してください。

- Server - Scan ( Windows NT 版 ): < Server - Scan インストールディレクトリ >  
  ¥log¥
- Server - Scan ( HP-UX 版 ): /var/opt/SrvScan/log/



## 7.2 GSS\_START

---

HP-UX 版および HI-UX/WE2 版 Server - Scan のサービスを起動するコマンドです。以下のファイルを実行してください。

- HP-UX 版 : /opt/SrvScan/bin/GSS\_START

なお、コマンドを実行する前に、次の条件を満たしているかどうかを確認してください。

実行するメールサーバの Object Server サービスが動作している。

実行するメールサーバの Address Server サービスが動作している。

また、本コマンドは Address Server の環境設定で設定したシステム管理者で実行する必要があります。

### コマンド書式

---

#### 構文

GSS\_START

### 戻り値

---

- 0 正常にサービスを起動しました。
- 2 Object Server が起動されていません。
- 3 Server - Scan は既に起動済みです。
- 5 Address Server の情報取得に失敗しました。
- 6 ファイルの入出力障害が発生しました。
- 7 システムエラーが発生しました。
- 8 コマンドの実行者がシステム管理者ではありません。
- 10 Server - Scan サービスが規定時間内に停止しませんでした。

## 7. コマンドリファレンス

11

環境設定が完了していません。

15

Server - Scan の環境設定中です。

16

Server - Scan サービスが規定時間内に起動できませんでした。

17

Server - Scan サービスの起動が外部からキャンセルされました。

## メッセージ

---

KDGV020-E Object Server が起動されていません。

### 要因

Object Server サービスが起動されていないため Server - Scan サービスを起動できませんでした。

### 対処

Object Server 及び Address Server のサービスを起動後、コマンドを再実行してください。

KDGV021-E Server - Scan が既に起動されている可能性があります。

ps コマンド (ps -ef|grep vckdemon) で vckdemon プロセスの動作状態を確認してください。

動作中でない場合は、rm コマンドで下記ファイルを削除してください。

・インストールディレクトリ /tmp/pidfile

### 要因

Server - Scan のサービスは既に起動されている可能性があります。

### 対処

ps -ef | grep vckdemon を実行し、vckdemon プロセスが存在するかを確認してください。

vckdemon プロセスが起動されている場合は、Server - Scan サービスは起動済みです。起動されていない場合は、rm で /var/opt/SrvScan/tmp/pidfile(HP-UX) を削除した後に、GSS\_START コマンドを再実行してください。

KDGV022-E Address Server の情報を参照できません。(nn,mm)

### 要因

Address Server の環境情報の参照に失敗しました。

nn :

1 Address Server がインストールされていません。

2 Address Server の環境設定が実行されていません。又は、Address Server が

所有するファイルの参照に失敗しました。

mm：システムが設定したエラーコード (errno) です。

#### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV023-E システムで障害が発生しました。(nn,mm)

#### 要因

コマンドの処理中にシステムで回復できない障害が発生しました。

nn：

- 1 環境変数の設定に失敗しました。
- 2 環境情報ファイルの参照に失敗しました。
- 3 環境情報ファイルの更新に失敗しました。
- 4 作業用ディレクトリの指定に誤りがあります。
- 5 プロセスの fork あるいは execl に失敗しました。
- 6 プロセス管理ファイルのアクセスに失敗しました。
- 7 ファイルの排他処理に失敗しました。
- 8 down ファイルの削除に失敗しました。
- 9 プロセスの起動後にエラーを検出したため、プロセスを停止しようとしたが失敗しました。

mm：システムが設定したエラーコードです。

#### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV025-E Server - Scan の環境設定が完了していません。

#### 要因

Server - Scan の環境設定が完了していません。

#### 対処

Server - Scan の環境設定を実施後に、コマンドを再実行してください。

KDGV026-E システム管理者権限で実行してください。

#### 要因

コマンドの実行者がシステム管理者ではありません。

#### 対処

Address Server の環境設定で設定したシステム管理者でコマンドを再実行してください。

KDGV027-E Server - Scan の起動に失敗しました。(nn)

#### 要因

Server - Scan の起動に失敗しました。

## 7. コマンドリファレンス

nn :

- 1 起動したプロセスからエラー報告を受取りました。
- 2 時間内にサービス起動が完了しませんでした。
- 3 ユーザ操作によりコマンドの処理が打ち切られました。
- 4 起動したプロセスが存在しなくなりました。

対処

Groupmax Address Server Console ウィンドウあるいはメッセージファイルに出力されているメッセージからエラーの原因を取り除いてください。

KDGV029-E Server - Scan の環境設定中のためコマンドを実行できません。

要因

Server - Scan の環境設定中のため、投入したコマンドは実行できません。

対処

環境設定が終了した後、コマンドを再実行してください。あるいは GSS\_SETUP コマンドが正しく終了されていることを確認してください。

## 7.3 GSS\_STOP

---

HP-UX 版および HI-UX/WE2 版 Server - Scan サービスを停止します。以下のファイルを実行してください。

- HP-UX 版 : /opt/SrvScan/bin/GSS\_STOP

なお、本コマンドは Address Server の環境設定で設定したシステム管理者で実行する必要があります。

### コマンド書式

---

構文

GSS\_STOP

### 戻り値

---

- 0  
正常にサービスを停止しました。
- 5  
Address Server の情報取得に失敗しました。
- 6  
ファイルの入出力障害が発生しました。
- 7  
システムエラーが発生しました。
- 8  
コマンドの実行者がシステム管理者ではありません。
- 9  
Server - Scan サービスは起動されていません。
- 10  
Server - Scan サービスが規定時間以内に停止しませんでした。

### メッセージ

---

KDGV022-E Address Server の情報を参照できません。(nn,mm)

要因

Address Server の環境情報の参照に失敗しました。

## 7. コマンドリファレンス

nn :

- 1 Address Server がインストールされていません。
- 2 Address Server の環境設定が実行されていません。又は、Address Server が所有するファイルの参照に失敗しました。

mm : システムが設定したエラーコード (errno) です。

対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV023-E システムで障害が発生しました。(nn,mm)

要因

コマンドの処理中にシステムで回復できない障害が発生しました。

nn :

- 1 環境変数の設定に失敗しました。
- 2 環境情報ファイルの参照に失敗しました。
- 3 環境情報ファイルの更新に失敗しました。
- 4 作業用ディレクトリの指定に誤りがあります。
- 5 プロセスの起動に失敗しました。
- 6 プロセス管理ファイルのアクセスに失敗しました。
- 7 ファイルの排他処理に失敗しました。
- 8 down ファイルの削除に失敗しました。
- 9 プロセスの起動後にエラーを検出したため、プロセスを停止しようとしたが失敗しました。

mm : システムが設定したエラーコードです。

対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV024-I Server - Scan は起動されていません。

要因

Server - Scan のサービスは起動されていませんでした。

対処

対処は不要です。

KDGV025-I Server - Scan の環境設定が完了していません。

要因

Server - Scan の環境設定が完了していません。

対処

Server - Scan の環境設定後に、コマンドを再実行してください。

KDGV026-E システム管理者権限で実行してください。

要因

コマンドの実行者がシステム管理者ではありません。

対処

Address Server の環境設定で設定したシステム管理者でコマンドを再実行してください。

KDGV028-E Server - Scan の停止に失敗しました。

要因

Server - Scan サービスが規定時間以内に停止しませんでした。

対処

ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

## 7.4 vkstat

---

Server - Scan のウイルスチェック処理待ちキューの状態を表示します。以下のファイルを実行してください。

- Windows NT 版： < Server - Scan インストールディレクトリ > \bin\vkstat.exe
- HP-UX 版： /opt/SrvScan/bin/vkstat

なお、HP-UX 版 Server - Scan で本コマンドを実行する場合、Address Server の環境設定で設定したシステム管理者で実行する必要があります。

Windows2008 でコマンドを実行する場合は、「付録 D.2 コマンド実行時の注意事項」を参照してください。

### コマンド書式

---

#### 構文

```
vkstat [-s] [-oファイル名] [-eファイル名] [-h]
```

#### 引数とオプション

-s

エラーメッセージを標準エラー出力に表示するのを抑止する場合に指定します。省略した場合は、標準エラー出力に表示します。

-o ファイル名

処理結果（メッセージ KDG002-I）をファイルに出力する場合に指定します。ファイル名は 256 文字以内の完全パスか相対パスで指定してください。なお、-（ハイフン）で始まるファイル名は指定できません。

-e ファイル名

エラーメッセージをファイルに出力する場合に指定します。ファイル名は 256 文字以内の完全パスか相対パスで指定してください。なお、-（ハイフン）で始まるファイル名は指定できません。

-h

ヘルプを標準出力に表示する場合に指定します。このオプションを指定した場合は、ほかのオプションは無視され、ヘルプの表示だけを行います。

### 戻り値

---

0

正常に状態表示を完了しました。



- 1  
コマンド引数が不正です。正しいコマンド引数を指定して再実行してください。
- 4  
メモリの確保に失敗しました。十分なメモリを確保後、再実行してください。
- 5  
ディスクの空きスペースが不足しました。
- 6  
ファイルの入出力障害が発生しました。
- 7  
システムエラー。サーバが動作できる状態が確認してください。
- 15  
Server - Scan の環境設定中です。環境設定が終了した後、再実行してください。

## メッセージ

---

KDGV002-I キューには MAIL = n, X400 = n, DOCM = n の要求が存在します。

### 要因

ウイルスチェック待ちの各キューには n 件の要求があります。n が 0 の場合、ウイルスチェックは完了しています。  
なお、DOCM = n は HP-UX 版のみ出力されます。

### 対処

対処は不要です。

KDGV003-E パラメタ (パラメタ) には値を指定できません。

### 要因

値を指定できないパラメタに値が指定されています。

### 対処

正しい引数を指定して再実行してください。

KDGV006-E コマンド実行に必要なメモリが確保できません。

### 要因

メモリの確保に失敗しました。

### 対処

十分なメモリを確保後、再実行してください。

KDGV007-E 作業用ディレクトリ内の空きスペースが不足しています。

### 要因

作業用ディレクトリ内の空きスペースが不足しているため、ウイルスチェック依頼を登録できません。

## 7. コマンドリファレンス

### 対処

作業用ディレクトリが存在するディスクから不要なファイルを削除してください。  
又は、作業用ディレクトリを別ディスクへ移動してください。

KDGV008-E ファイル ( ファイル名 ) の入出力障害が発生しました。 (nn)

### 要因

ファイル名で示すファイルの処理中に入出力障害が発生しました。 nn はシステムが設定したエラーコード ( errno ) です。

### 対処

ファイル名で示すファイルがコマンドの引数で指定したファイルの場合は、ファイルに対するアクセス権があるか、ファイルが存在するドライブに空きスペースがあるかを確認してください。

KDGV009-E システムで障害が発生しました。 (nn)

### 要因

コマンドの処理中にシステムで回復できない障害が発生しました。

nn :

- 1 レジストリ情報の入力に失敗しました。
- 2 環境変数の設定に失敗しました。
- 3 作業用ディレクトリの指定に誤りがあります。
- 4 作業用ディレクトリが存在しない、あるいは書き込み禁止になっています。
- 5 キューファイルのアクセスに失敗しました。

### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV010-E ファイル名 ( ファイル名 ) の指定が長すぎます。

### 要因

パラメタに指定したファイル名の長さが 256 文字を超えています。

### 対処

256 文字以内のファイル名を指定してください。

KDGV011-E ファイル ( ファイル名 ) をオープンできません。

### 要因

-o 又は -e パラメタに指定したファイルがオープンできません。

### 対処

ファイル名に指定したファイルが正しいか、書き込み許可されているなどの属性が正しいかを見直してください。

KDGV012-E パラメタ ( パラメタ ) には値の指定が必要です。

### 要因

値の指定が必要なパラメタに値が指定されていません。

## 対処

パラメタに値を指定してください。

KDGV013-E パラメタ (パラメタ) には複数の値は指定できません。

## 要因

パラメタには値を一つしか指定できません。

## 対処

パラメタに指定する値を一つにしてください。

KDGV022-E Address Server の情報を参照できません。(nn,mm)

## 要因

Address Server の環境情報の参照に失敗しました。

nn :

- 1 Address Server がインストールされていません。
- 2 Address Server の環境設定が実行されていません。又は、Address Server が所有するファイルの参照に失敗しました。

mm : システムが設定したエラーコード (errno) です。

## 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV025-E Server - Scan の環境設定が完了していません。

## 要因

Server - Scan の環境設定が完了していません。

## 対処

Server - Scan の環境設定を実施後に、コマンドを再実行してください。

KDGV026-E システム管理者権限で実行してください。

## 要因

コマンドの実行者がシステム管理者ではありません。

## 対処

Address Server の環境設定で設定したシステム管理者でコマンドを再実行してください。

KDGV029-E Server - Scan の環境設定中のためコマンドを実行できません。

## 要因

Server - Scan の環境設定中のため、投入したコマンドは実行できません。

## 対処

環境設定が終了した後、コマンドを再実行してください。あるいは GSS\_SETUP コマンドが正しく終了されていることを確認してください。

## 7.5 mlreqvk

---

対象が所有するメールや記事のチェック依頼を行うコマンドです。以下のファイルを実行してください。

- Windows NT 版 : < Server・Scan インストールディレクトリ > \bin\mlreqvk.exe
- HP-UX 版 : /opt/SrvScan/bin/mlreqvk

なお、このコマンドを実行する前に、次の条件を満たしているかどうかを確認してください。

実行するメールサーバの Address Server サービスが動作している。

また、HP-UX 版 Server・Scan で本コマンドを実行する場合、Address Server の環境設定で設定したシステム管理者で実行する必要があります。

Windows2008 でコマンドを実行する場合は、「付録 D.2 コマンド実行時の注意事項」を参照してください。

## コマンド書式

---

### 構文

```
mlreqvk [-a] [-u ユーザID[,ユーザID]] [-g 組織ID[,組織ID]] [-b 掲示板ID[,掲示板ID]] [-f ファイル名] [-s] [-e ファイル名] [-h]
```

### 引数とオプション

-a

全ユーザ、全組織、及び全掲示板を対象にするとともに、回覧などシステムが保持するメールや記事も対象にします。-u,-g,-b,-f オプションと同時に指定した場合、-a オプションを優先します。mlreqvk -a コマンドを実行すると全てのメール、記事、回覧をウイルスチェックするため、処理にかなりの時間がかかります。メールサーバを停止して支障のない休日などに実行することを推奨します。

-u ユーザ ID[, ユーザ ID]

指定したユーザ ID を持つユーザの所有するメールのチェック依頼を行います。複数人確認する場合は、,(半角カンマ)で区切り列挙してください。ただし、-f オプションが同時に指定された場合は無視されます。

-g 組織 ID[, 組織 ID]

指定した組織 ID を持つ組織の所有するメールのチェック依頼を行います。複数組織確認する場合は、,(半角カンマ)で区切り列挙してください。ただし、-f オプションが同時に指定された場合は無視されます。

-b 掲示板 ID[, 掲示板 ID]

指定した掲示板 ID を持つ掲示板に登録された記事のチェック依頼を行います。複数掲示板確認する場合は、,(半角カンマ)で区切り列挙してください。ただし、-f オプションが同時に指定された場合は無視されます。

-f ファイル名

対象リストファイルのファイル名を指定します。対象リストファイルとは、1 行を 1 レコードとし、レコードには識別子と各 ID を記述したファイルです。対象リストファイルの形式は以下を参照してください。

-s

エラーメッセージなどの実行結果を標準エラー出力に表示するのを抑止する場合に指定します。省略した場合は、標準エラー出力に表示します。

-e ファイル名

エラーメッセージなどの実行結果をファイルに出力する場合に指定します。ファイル名は 256 文字以内の完全パスか相対パスで指定してください。

-h

ヘルプを標準出力に表示する場合に指定します。このオプションを指定した場合は他のオプションは無視され、ヘルプの表示だけを行います。

## 機能説明

---

Server - Scan を後から導入し、運用の初めに既存のメールや記事をチェックしたい場合は、-a オプションを指定して実行してください。ウイルスチェックエンジンやパターンファイルを更新して新しいウイルスを検出する場合も、同様に -a オプションを使用してください。

なお、mlreqvk -a コマンドを実行すると全てのメール、記事、回覧をウイルスチェックするため、処理にかなりの時間がかかります。メールサーバを停止して支障のない休日などに実行することを推奨します。

Server - Scan がないメールサーバから少数のユーザが移動して来た場合は、-u オプションなどを使用すると便利です。

## 対象リストファイルの形式

---

1 行を 1 レコードとします。レコードの内容は以下になります。各項のセパレータは半角スペースです。

対象種別 対象 ID

対象種別

u : ユーザ

## 7. コマンドリファレンス

g : 組織  
b : 掲示板

### 対象 ID

対象種別に u を指定した場合はユーザ ID を指定してください。対象種別に g を指定した場合は組織 ID を指定してください。対象種別に b を指定した場合は掲示板 ID を指定してください。

## 戻り値

---

- 0  
ウイルスチェック依頼が正常に終了しました。
- 1  
コマンド引数が不正です。正しいコマンド引数を指定して再実行してください。
- 2  
環境設定に失敗しました。
- 3  
指定されたユーザ ID または組織 ID または掲示板 ID が不正です。
- 4  
CTRL+C により強制終了しました。
- 5  
Groupmax Server - Scan がインストールされていません。
- 6  
Object Server サービスが未起動です。
- 10  
メモリ不足が発生しました。
- 80  
DB アクセスエラーが発生しました。
- 81  
ディレクトリの読み込みに失敗しました。
- 100  
-e で指定したファイルアクセスでエラーが発生しました。
- 101  
-f で指定したファイルが見つかりません。
- 102

-f で指定したファイルで入出力エラーが発生しました。

## メッセージ

---

実行環境の設定に失敗しました。

要因

実行環境が不正です。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

ユーザ ID が不正です。

要因

-u パラメタまたは -f パラメタで指定するファイルに記述したユーザ ID が長すぎます。

対処

ユーザ ID を見直した後、再度実行して下さい。

組織 ID が不正です。

要因

-g パラメタまたは -f パラメタで指定するファイルに記述した組織 ID が長すぎます。

対処

組織 ID を見直した後、再度実行して下さい。

掲示板 ID が不正です。

要因

-b パラメタまたは -f パラメタで指定するファイルに記述した掲示板 ID が長すぎます。

対処

掲示板 ID を見直した後、再度実行して下さい。

処理の中止要求を受けつけました。

要因

CTRL+C によりコマンドの実行を中断しました。

対処

対処は不要です。

Groupmax Server - Scan がインストールされていません。

要因

Groupmax Server - Scan がインストールされていません。

対処

Groupmax Server - Scan をインストール、環境設定後再度実行して下さい。

## 7. コマンドリファレンス

Object Server サービスが未起動です。

要因

Object Server がサービス起動されていません。

対処

Object Server をサービス起動後再度実行して下さい。

メモリ不足が発生しました。

要因

メモリ不足が発生しました。

対処

メモリ不足要因を取り除いた後再度実行して下さい。

DB アクセスで異常が発生しました。

要因

Address Server の DB が作成されていない。またはデータベースに障害が発生しました。

対処

Address Server の DB が作成されていない場合は作成後、再度実行してください。  
Address Server の DB が作成済みの場合は障害受付窓口に連絡してください。

ディレクトリの読み込みに失敗しました。

要因

Address Server のインストール先に障害が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

-e で指定したエラーメッセージの出力ファイルが不正です。

要因

-e で指定したファイルのパス名に誤りがあります。または書き込み権限がありません。

対処

パス名を見直した後再度実行してください。

-f で指定したファイルが見つかりません。

要因

-f で指定したファイルのパス名に誤りがあります。

対処

パス名、アクセス権を見直した後再度実行してください。

-f で指定したファイルで入出力エラーが発生しました。

要因

-f で指定したファイルに読み込み権限がありません。



対処

アクセス権を見直した後再度実行してください。

ウィルスチェック依頼に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

ユーザ「ユーザ ID」は存在しないかまたはホームサーバが異なります。

対処

正しいサーバで再度実行してください。

組織「組織 ID」は存在しないかまたはホームサーバが異なります。

対処

正しいサーバで再度実行してください。

掲示板「掲示板 ID」は存在しないかまたはレプリカ設定されていません。

対処

正しいサーバで再度実行してください。

ウィルスチェック依頼の対象の指定 (-a,-f,-u,-g,-b) がありません。

要因

パラメタに -a,-f,-u,-g,-b の何の指定もありません。

対処

パラメタを見直して再度実行してください。

-f で指定したファイル名と -e で指定したファイル名が一致しています。

要因

-f で指定したファイル名と -e で指定したファイル名が一致しています。

対処

パラメタを見直して再度実行してください。

## 7.6 mlcnclvk

---

このコマンドは Server - Scan がアンインストールされたときに実行するコマンドです。

メールや記事の Server - Scan へのウイルスチェック要求をキャンセルします。以下のファイルを実行してください。

- Windows NT 版 : < Mail Server インストールディレクトリ >  
¥x400¥bin¥mlcnclvk.exe
- HP-UX 版 : /opt/GroupMail/x400/bin/mlcnclvk

なお、このコマンドを実行する前に、次の条件を満たしているかどうかを確認してください。

Server - Scan がアンインストールされている。

Object Server サービスが動作している。

また、HP-UX 版 Server - Scan で本コマンドを実行する場合、Address Server の環境設定で設定したシステム管理者で実行する必要があります。

Windows2008 でコマンドを実行する場合は、「付録 D.2 コマンド実行時の注意事項」を参照してください。

### コマンド書式

---

構文

mlcnclvk

### 機能説明

---

Server - Scan が存在する環境で実行すると、チェック要求をキャンセルしないで、コマンドがエラーになります。

### 戻り値

---

0

正常にチェック要求のキャンセルを完了しました。正常終了のため必要ありません。

255

システムに異常が発生しました。コマンドの実行条件が満たされているか確認してください。

満たされている場合は、障害受付窓口に連絡してください。

## メッセージ

---

Submit < 件数 > mail(s)

要因

チェック依頼をキャンセルした数を表示します。

対処

必要ありません。

Virus check mode Error

要因

Server - Scan が存在します。

対処

Server - Scan が不要な場合は、Server - Scan をアンインストールしてから再実行してください。

SKIP < ユーザ ID>(<OR 名 ID>) - MAILBOX IS BLOCKED

要因

閉塞されているメールボックスの処理をスキップしました。

対処

閉塞が解除された時に、再実行してください。

DataBase Error

要因

Object Server が起動されていません。または Object Server が利用できる環境ではありません。

対処

Object Server の起動状況を確認後、再実行してください。

上記以外のメッセージ

要因

内部エラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

## 7.7 mlcnsvk

---

メール送信時のウイルスチェック処理で障害が発生すると、メールボックス内に不正な状態でメールが残ってしまうことがあります。この状態になると、当該ユーザの新たなメールが送信されなくなります。

このコマンドは上記状態を回復するために、メールボックス内に矛盾状態で存在する不正なメールの検出、および削除を行います。以下のファイルを実行してください。

- Windows NT 版： < Server - Scan インストールディレクトリ > \¥tool¥mlcnsvk.exe
- HP-UX 版： /opt/SrvScan/tool/mlcnsvk

なお、このコマンドを実行する前に、次の条件を満たしているかどうかを確認してください。

Object Server サービスが動作している。

Address Server サービスが停止している。

Server - Scan サービスが停止している。

また、HP-UX 版 Server - Scan で本コマンドを実行する場合、Address Server の環境設定で設定したシステム管理者で実行する必要があります。

Windows2008 でコマンドを実行する場合は、「付録 D.2 コマンド実行時の注意事項」を参照してください。

## コマンド書式

---

### 構文

```
mlcnsvk [-a] [-u ユーザID] [-r] [-s] [-h]
```

### 引数とオプション

-a

実行するサーバにメールボックスを持つ全ユーザおよび組織を対象とします。

-u ユーザ ID

対象のユーザ ID を指定します。複数個のユーザ ID はを指定することはできません。このオプションを指定した場合、-a オプションを無視します。

-r

不正なメールを検出した場合、削除することを指定します。

-s

エラーメッセージなどの実行結果を標準エラー出力に表示するのを抑止する場合に指定します。省略した場合、標準エラー出力に表示します。

-h

ヘルプを標準出力に表示する場合に指定します。このオプションを指定した場合は他のオプションは無視され、ヘルプの表示だけを行います。

## 戻り値

---

0

正常に処理を終了しました。

255

システムに異常が発生しました。コマンドの実行条件が満たされているか確認してください。条件が満たされている場合は、障害受付窓口に連絡してください。

## 機能説明

---

「KDG V111-E Groupmax サーバ (X400) から障害が報告されました。(・2)」メッセージが出力されているような場合、次の手順で本コマンドを実行してください。

- mlensvk コマンドを実行して不正メールの有無を確認します。
- 不正メールが存在すれば、-r オプションを指定して再度 mlensvk コマンドを実行して不正メールを削除します。

## 出力情報

---

次の情報を標準出力に表示します。

<Type>	<ID>	<ORNameID>	<Invalid Mail>	.....	見出し
タイプ	ID	OR 名 ID	不正メール件数	.....	処理結果
:	:	:	:		

### タイプ

- S : システムメールボックス
- U : ユーザのメールボックス
- O : 組織の共用メールボックス
- ? : 不良ユーザ

### ID

個人または組織メールボックスの場合、そのユーザ ID または組織 ID を表示します。

## メッセージ

---

### Success

要因

コマンドの処理が正常に終了しました。

対処

対処は不要です。

### Invalid userid

要因

-u オプションに指定した ID が誤っています。指定した ID が見つかりません。

対処

-u オプションに正しい ID を指定してコマンドを再実行してください。

### Not enough memory

要因

メモリの確保に失敗しました。

対処

十分なメモリを確保後、再実行してください。

### Database error [DB メッセージ]

要因

Object Server から障害が報告されました。

対処

Object Server が起動されているかを確認してください。正しく起動されている場合、障害受付窓口に連絡してください。

### System error [詳細]

要因

回復不可能な障害が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

## 注意事項

---

メールボックスが閉塞されているユーザについては、不正メールの削除が行えません。

この場合処理結果の表示が次のようになります。

タイプ ID OR 名 ID 不正メール件数 "BLOCKED"

# 8

## メッセージ一覧

この章では、Server - Scan を運用する際に表示されるメッセージについて説明します。

---

### 8.1 Groupmax Address Server Console ウィンドウに表示されるメッセージ一覧

## 8.1 Groupmax Address Server Console ウィンドウに表示されるメッセージ一覧

---

マスタ管理サーバの Groupmax Address Server Console ウィンドウに表示されるメッセージについて説明します。なお、Groupmax Address Server Console ウィンドウを表示する方法については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

Groupmax Address Server Console ウィンドウに表示できるメッセージの最大の長さは半角で 80 文字です。そのため 80 文字を超えるメッセージは途中までしか表示されません。途中までしか表示されなかったメッセージを確認する場合は、次に示すログディレクトリ下のメッセージファイル (errormsg.txt) で確認してください。なお、ユーザでの対応が不可な障害の場合、ログディレクトリ下のログファイル (vakzinlog.txt) を採取し障害受付窓口ご連絡してください。

- Server - Scan ( Windows NT 版 ): <インストールディレクトリ> \¥SrvScan¥log¥
- Server - Scan ( HP-UX 版 ): /var/opt/SrvScan/log/

KDGV100-I ウイルス感染ファイルを検出しました。

### 要因

ウイルスチェックをした結果、感染ファイルを検出しました。このメッセージに続いて KDGV101-I メッセージが出力されます。

### 対処

対処は不要です。

KDGV101-I APID, 種別, 所有者 1[, 所有者 2], タイトル情報

### 要因

ウイルスチェックをした結果、感染ファイルを検出しました。または、ウイルスチェックに失敗し感染していないことを保証できないファイル (失敗ファイル) を検出しました。

APID : 感染ファイルまたは失敗ファイルが検出された Groupmax アプリケーションサーバの識別子。

MAIL : Group Mail

X400 : Group Mail

DOCM : Groupmax Document Manager

種別 : 感染ファイルまたは失敗ファイルが検出されたデータ種別。送信メール, 受信メール, 掲示板記事など。

所有者 1[, 所有者 2] : 感染ファイルまたは失敗ファイルを含むデータの所有者。

送信メールの宛先など。所有者 2 が表示されている場合, 所有者 1 はメールの送信者。所有者 2 がメールの受信者で, 受信者のメールボックス内で感染ファ



イルが検出されたこと示します。

タイトル情報：感染ファイルまたは失敗ファイルを含むデータのタイトル名。  
メールの主題，記事名など。

対処

対処は不要です。

KDGV102-I ウイルス感染ファイル(ファイル名)を隔離しました。(サブディレクトリ名)

要因

ファイル名で示す感染ファイルを隔離しました。

サブディレクトリ名：隔離ディレクトリ下に作成したサブディレクトリ名。

対処

対処は不要です。

KDGV103-E ウイルス感染ファイル(サブディレクトリ名,ファイル名)の隔離に失敗しました。  
(nn)

要因

ファイル名で示す感染ファイルの隔離に失敗しました。

サブディレクトリ名：隔離ディレクトリ下のサブディレクトリ名

nn：

-1 隔離ディレクトリ障害。

-2 隔離ファイル名生成障害。

上記以外 隔離失敗時にシステムが設定したエラーコード (errno) です。

対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV104-E ファイル所有者(所有者名)へのメール送信に失敗しました。(nn)

要因

感染ファイルの検出またはウイルスチェックの失敗を、所有者名で示すファイル所有者へメールで連絡しようとしたますが、メールの送信でエラーが発生しました。

nn：メール送信失敗時にシステムが設定したエラーコード (errno) です。

対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV105-E 通知メールの本文変更失敗しました。(所有者名,nn)

要因

感染ファイルの検出またはウイルスチェックの失敗を、所有者名で示すファイル所有者へメールで連絡時、通知メールの本文を管理者が定義した本文に置き換えられませんでした。通知メールの本文システムの標準値で送信しました。

nn：通知メール本文変更時にシステムが設定したエラーコード (errno) です。

## 8. メッセージ一覧

### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV106-E 管理者 ( 管理者名 ) へのメール送信に失敗しました。(nn)

### 要因

感染ファイルの検出またはウイルスチェックの失敗を、管理者名で示す管理者へメールで連絡することに失敗しました。

管理者名が表示されていないときはメール送信の失敗です。

nn :

-1 メモリ不足。

上記以外 メール送信失敗時にシステムが設定したエラーコード ( errno ) です。

### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV107-E 管理者 ( 管理者名, 種別 ) の宛先が見つかりません。(nn)

### 要因

管理者名, 種別で示す管理者の宛先が Address Server に登録されていませんでした。又は、メール属性がありませんでした。この管理者に対するメール連絡を諦めました。

種別 :

0 ニックネーム。

1 共有メールボックス ID。

2 E-Mail アドレス。

nn :

1 指定されたユーザはメールアドレスを持っていない。

2 指定されたユーザに書き方レベルの誤りがある。

100 指定されたユーザは存在しない。

-1 Object Server サービスが未起動である。

-2 Object Server へのアクセスでエラーが発生した。

### 対処

Address Server 側の運転席で存在するか、又は属性が正しいかを確認してください。また、Server - Scan の環境設定で登録した宛先名及び種別に誤りがないかを確認してください。

KDGV108-E 隔離ディレクトリ内の空きスペースが不足しています。(ファイル名)

### 要因

隔離ディレクトリの空きスペースが不足しているため、ファイル名で示す感染ファイルを隔離できませんでした。又は説明ファイルや隔離ディレクトリを作成できませんでした。

## 対処

隔離用ディレクトリがあるディスクから不要なファイルを削除してください。又は、隔離用ディレクトリを別ディスクへ移動してください。

KDGV109-E キューファイル (APID) で入出力障害が発生しました。(nn)

## 要因

キューファイルの処理中に入出力障害が発生しました。このキューは閉塞します。

APID：障害の検出されたキューに対応する Groupmax アプリケーションサーバの識別子です。

MAIL：Group Mail

X400：Group Mail

DOCM：Groupmax Document Manager

nn：システムが設定したエラーコード (errno) です。

## 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV110-E メモリ不足が発生しました。

## 要因

Server - Scan 本体が処理するためのメモリが十分にありません。現在処理中のデータの処理を後回しにして、次のデータを処理します。

## 対処

使用できるメモリを拡張してください。

KDGV111-E Groupmax サーバ (APID) から障害が報告されました。(エラー情報)

## 要因

Groupmax アプリケーションサーバとのインタフェース処理でエラー報告がありました。現在処理中のデータの処理を後回しにして、次のデータを処理します。なお、Groupmax Document Manager でエラーの場合は、Groupmax Document Manager のサービスが起動されていない状態で、管理文書をウイルスチェックした場合や管理文書のウイルスチェックが完了していない状態で Groupmax Document Manager アンインストールした時にもこのエラーになります。

APID：障害の検出されたキューに対応する Groupmax アプリケーションサーバの識別子です。

MAIL：Group Mail

X400：Group Mail

DOCM：Groupmax Document Manager

エラー情報：処理中のデータ及びエラーの内容です。

## 対処

Groupmax Document Manager のサービスが起動されていない状態で管理文書をウイルスチェックした場合は、Groupmax Document Manager のサービスを起動して

## 8. メッセージ一覧

再度ウイルスチェックしてください。管理文書のウイルスチェックが完了していない状態で Groupmax Document Manager をアンインストールした場合には、対処は不要です。その他の場合には、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV112-E サービス起動に失敗しました。(nn,mm)

### 要因

Server - Scan のサービス起動ができません。

nn :

- 1 ログの出力準備に失敗しました。
- 2 環境情報ファイル (setup.ini) の入力に失敗しました。
- 3 共用メモリの確保に失敗しました。
- 4 共用メモリのアタッチに失敗しました。
- 5 セマフォの割り当てに失敗しました。
- 6 セマフォの初期化に失敗しました。
- 7 キューファイルの初期化に失敗しました。
- 8 子プロセスの起動に失敗しました。
- 9 使用するウイルスチェックエンジンがトレンドマイクロ社製の場合、ディレクトリ内に必要なモジュールが見つかりません。または、モジュールの属性が正しくありません。または、前提となるバージョンの Address Server が正常にインストールされていません。
- 10 システム管理情報格納用のファイルの作成に失敗しました。
- 13 VR 情報の取得に失敗しました。

mm : システムが設定したエラーコード (errno) です。

### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV113-E サービス停止時にエラーを検出しました。(nn)

### 要因

Server - Scan のサービス停止処理中にエラーを検出しました。

エラーを無視してサービスを停止します。

nn :

- 1 子プロセスが一定時間内に停止しなかったため、子プロセスの終了を確認しないままサービスを停止しました。

### 対処

プロセス (Windows NT 版の場合は vekchild.exe , HP-UX 版の場合は vekchild) が残っている場合、手操作でプロセスを停止してください。

KDGV114-E ユーザ A P (ファイル名) の起動に失敗しました。(nn)

### 要因

感染ファイルの検出を、ファイル名で示すユーザ AP 起動で連絡することに失敗しました。このユーザ AP の起動を諦め、処理を続行します。

nn：アプリケーション起動時にシステムが設定したエラーコード（errno）です。

#### 対処

メモリ容量やスワップ領域が不足でないかチェックしてください。  
プロセス生成が失敗したときだけエラーとなり、パス名などに誤りがあってもエラーは返しません。

KDGV115-E ウイルスチェックに失敗しました。（ファイル名, nn）

#### 要因

ウイルスチェックエンジンからチェック失敗が報告されました。ファイル名で示すファイルの形式が、ウイルスチェックエンジンがサポートしていないファイル形式の可能性があります。

本メッセージに続いて KDGV101-E メッセージが出力されている場合は、本ファイルを含むメール、掲示板記事または登録文書中の本ファイルは、ウイルス感染ファイルが検出された場合と同様に処置（メールによる通知、及びファイルの隔離など）された後破棄されます。KDGV101-E メッセージが出力されていない場合は、本ファイルのウイルスチェックを再試行します。

ファイル名：ウイルスチェックに失敗したファイル名。

nn：ウイルスチェックエンジン固有のエラーコード。

#### 対処

使用しているウイルスチェックエンジンがサポートしているファイル形式を確認してください。また、使用しているウイルスチェックエンジンが最新のバージョンか確認してください。ウイルスチェックエンジンがサポートしているファイル形式でエラーが発生する場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV116-E Object Server へのログインができません。（nn）

#### 要因

Object Server へのログインができません。そのため、Server - Scan サービスを停止します。

nn：システムが設定したエラーコード。

#### 対処

ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV117-E サブディレクトリの作成に失敗しました。（ディレクトリ名, nn）

#### 要因

ウイルスチェックをするためのサブディレクトリが作成できません。そのため、Server - Scan サービスを停止します。

ディレクトリ名：作成に失敗したサブディレクトリ名です。

nn：ディレクトリ作成時にシステムが設定したエラーコード（errno）です。

## 8. メッセージ一覧

### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV118-E サブディレクトリの削除に失敗しました。(ディレクトリ名,nn)

### 要因

Server - Scan のサービス停止時に作業用のサブディレクトリの削除に失敗しました。エラーを無視してサービスを停止します。

ディレクトリ名：削除に失敗したサブディレクトリ名です。

nn：ディレクトリ削除時にシステムが設定したエラーコード (errno) です。

### 対処

原因コードから障害の原因を取り除き、ディレクトリ名で示すサブディレクトリを手操作で削除してください。

KDGV120-E セットアップ情報取得に失敗しました。

### 要因

環境設定情報の取得に失敗し、ウイルス感染通知処理などができませんでした。

### 対処

環境設定情報が正しいか確認してください。

KDGV121-E プロセスの起動に失敗しました。(nn,mm)

### 要因

Server - Scan のプロセスが起動ができませんでした。

nn：

- 1 ログ出力準備に失敗しました。
- 2 共用メモリのアタッチに失敗しました。
- 3 モジュール間のインタフェースエラーを検出しました。
- 4 環境情報ファイル (setup.ini) の入力に失敗しました。
- 10 環境情報ファイル (setup.ini) の入力に失敗しました。
- 11 作業用ディレクトリの作成に失敗しました。
- 12 不当なウイルスチェックエンジンが指定されました。
- 13 ウイルスチェックエンジンの初期化に失敗しました。

mm：システムが設定したエラーコード (errno) です。

### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV122-E 所有者 (所有者名,nn) の宛先が見つかりません。

### 要因

ニックネームから OR 名への変換に失敗しました。

所有者名：送信宛先

nn :

- 1 指定されたユーザはメールアドレスを持っていません。
- 2 指定されたユーザに書き方レベルの誤りがあります。
- 4 Address Server がセットアップされていません。
- 100 指定されたユーザは存在しません。
- 1 Object Server サービスが未起動です。
- 2 Object Server へのアクセスでエラーが発生しました。
- 10 一時的なメモリの割り当てに失敗した。

対処

所有者名のユーザが存在するか確認してください。

KDGV123-E 通知メールの配信に失敗しました。(所有者名, ステータス)

要因

送信完了後に、相手にメールが配信されませんでした。

所有者名：送信宛先

ステータス：

3 配送失敗。

上記以外 配信タイムアウト(1日経過後も配送中状態の場合)。

対処

送信宛先が正しい管理者又ははユーザになっているか確認してください。

必要であれば、通知メールに失敗した宛先へウイルス感染を連絡してください。

KDGV124-E 作業用ディレクトリ空きスペースが不足しています。

要因

Server - Scan が使用する作業用ディレクトリのディスクの空き容量が不足しています。

対処

作業用ディレクトリとして設定しているディスクの容量を確保してください。

KDGV125-E ウイルスチェックエンジンが応答しません。

要因

ウイルスチェックエンジンへチェック依頼を行なったが、許容時間内に応答がありません。当該プロセスを強制的に終了させました。ウイルスチェックエンジン側で障害が発生している可能性があります。チェック処理中だったファイルは、一定時間経過後に再試行されます。

対処

ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV126-E メール送信の初期設定に失敗しました。(nn)

要因

メールを送信するための初期設定処理でエラーが発生しました。Server - Scan サービスを停止します。

## 8. メッセージ一覧

nn :

- 1 X400 に対する初期化に失敗しました。
- 2 環境設定で設定したニックネームを持つユーザは存在しません。
- 3 環境設定で設定したニックネームを持つユーザはメールアドレスを持っていません。
- 4 環境設定で設定したニックネームを持つユーザは当該サーバにメールボックスを持っていません。
- 5 X400 に対するログイン処理に失敗しました。
- 6 メールアドレスの変換に失敗しました。

対処

nn=2 ~ 4 の場合、Server - Scan の環境設定で指定した「送信者として使用するニックネーム」が正しいか（メールボックスを持つユーザとして、当該 Mail Server に登録されているか）を見直してください。指定が正しい場合や nn=1, 5 ~ 6 の場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV127-E 感染ファイルの説明メッセージ作成に失敗しました。（サブディレクトリ名,nn）

要因

ウイルス感染ファイルの検出、またはウイルスチェックの失敗により隔離したファイルの説明文テキストファイルの作成に失敗しました。

サブディレクトリ名：隔離フォルダ下のサブディレクトリ名

nn：説明文テキストファイル作成時にシステムが設定したエラーコード（errno）です。

対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV128-E 続行不可能な障害を検出したためサービスを停止します。（nn）

要因

続行不可能な障害を検出したため、Server - Scan サービスを停止します。

nn :

- 1 子プロセスの再起動回数が 100 回を越えました。
- 2 親プロセスのアプリケーションエラーを検出しました。
- 3 子プロセスが存在しなくなりました。
- 6 空きディスクの不足によりファイル転送が連続して失敗した。

対処

ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV143-E セマフォの操作に失敗しました。（nn）

要因

プロセス間の排他処理を行なうためのセマフォ操作に失敗しました。



nn：システムが設定したエラーコード (errno) です。

**対処**

エラーコードからエラーの原因を調査してください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV146-E タイムアウトによりウイルスチェックが打ち切られました。(ファイル名)

**要因**

ウイルスチェックエンジン側のチェック処理が許容時間を経過しても終了しないため、チェックを中断しました。本メッセージに続いて KDGV101-I メッセージが表示されている場合は、本ファイルを含むメール、掲示板記事または登録文書中の本ファイルは、ウイルス感染ファイルが検出された場合と同じように処置(メールによる通知、およびファイルの隔離など)された後破棄されます。KDGV101-I メッセージが出力されない場合は、本ファイルのウイルスチェックを再実行します。

ファイル名：チェックが打ち切られたメール、掲示板記事の添付ファイル名あるいは登録文書中のファイル名。

**対処**

ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV147-E ウイルスチェックの失敗回数が限界値 (n) に達しました。

**要因**

ウイルスチェックエンジンからのエラー報告回数が限界値に達しました。

n：最大試行回数です。

**対処**

ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV148-E メモリ不足によりウイルスチェックが失敗しました。(ファイル名)

**要因**

ウイルスチェックエンジンからメモリ不足が報告されました。ファイル名で示すファイルは一定時間経過後に再実行されます。

ファイル名：メモリ不足によりウイルスチェックに失敗したメールまたは掲示板記事の添付ファイル名です。

**対処**

本エラーが多発する場合は、使用できるメモリを拡張してください。

KDGV149-I チェックに失敗したファイル(ファイル名)を隔離しました。(ディレクトリ名)

**要因**

ウイルスチェックに失敗し、非感染が確認できなかったファイルを隔離しました。

ファイル名：ウイルスチェックに失敗したメールまたは掲示板記事の添付ファイル名です。

ディレクトリ名：隔離ディレクトリ下のサブディレクトリ名です。

**対処**

## 8. メッセージ一覧

対処は不要です。

KDGV150-E チェックに失敗したファイル(ディレクトリ名, ファイル名)の隔離に失敗しました。(nn)

### 要因

ウイルスチェックに失敗したファイルの隔離に失敗しました。

ディレクトリ名：隔離ディレクトリ下のサブディレクトリ名です。

ファイル：ウイルスチェックに失敗したメールまたは掲示板記事の添付ファイル名です。

nn：

-1 隔離ディレクトリ障害。

-2 隔離ファイル名生成障害。

上記以外 隔離失敗時にシステムが設定したエラーコード (errno) です。

### 対処

原因コードから障害の原因を取り除いてください。ユーザでの対応ができない場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV151-E プロセス(プロセス名)の異常終了を検出しました。

### 要因

プロセスが異常終了状態になっているのを検出しました。必要であれば自動的に再起動します。

プロセス名：異常終了していたプロセスの名称です。

### 対処

特に対処は不要ですが、頻発するようであれば、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV153-E 引数が長すぎるため A P(ファイル)の起動に失敗しました。

### 要因

ウイルス感染ファイルが検出されたため、環境設定で指定されたファイル名のアプリケーションを起動しようとしたが、引数の指定が長すぎるため起動に失敗しました。

### 対処

起動アプリケーションの引数は 2048 バイト以内になるように環境設定で定義し直してください。

KDGV158-E ウイルスチェック要求(クラス ID: クラス NO)を無視しました。

### 要因

クラス NO のユーザに対するウイルスチェック処理において、一定回数以上のエラーを検出しました。

本ユーザに対するウイルスチェック要求をスキップして、Server-Scan の処理は続行されます。

## 対処

クラス NO のユーザのメールが送受信されなくなりますので、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV160-E ウイルスチェックの開始が指定されていません。

## 要因

インストール時または環境設定時の「ウイルスチェックを開始しますか?」という問い合わせに、[いいえ]が応答されたまま Server - Scan のサービスを起動しようとした。

## 対処

Server - Scan によるウイルスチェックを開始する場合は、Server - Scan の環境設定を実行して、環境設定の終了時に表示される「ウイルスチェックを開始しますか?」という問い合わせに、[はい]を応答してから、Server - Scan サービスを起動してください。

KDGV200-E ウイルスパターンファイルの読み込みに失敗しました。(ディレクトリ名,nn)

## 要因

ウイルスチェック用のパターンファイルの読み込みに失敗しました。

ディレクトリ名：パターンファイルの正しいディレクトリ。

nn：パターン読み込み API が返した戻り値。

## 対処

ディレクトリ名下にパターンファイルが存在するか確認してください。

パターンファイルが存在する場合は、ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV201-I パターンファイルが変更されました。変更前 =vr 情報 1, 変更後 = vr 情報 2 [サーバ名]

## 要因

Server - Scan サービスの起動中に現在使用中のパターンファイルとバージョンの違う別なパターンファイルを検出しました。本メッセージ出力以降からのウイルスチェック処理は、新しく検出したパターンファイルを使用して行います。

vr 情報 1：現在使用中のパターンファイルのバージョン情報

vr 情報 2：新しく検出したパターンファイルのバージョン情報

サーバ名：新たなパターンファイルが検出したウイルスチェックサーバ名

## 対処

対処は不要です。

KDGV202-I パターンファイルの変更処理でエラーが発生しました。(nn)

## 要因

Server - Scan サービスの起動中に現在使用中のパターンファイルとバージョンの違う別なパターンファイルを検出したが、切替え処理に失敗しました。障害の発生し

## 8. メッセージ一覧

たプロセスを停止します。

nn :

- 1 パターンファイル監視用プロセスがウイルスチェックエンジンの初期化処理に失敗しました。
- 2 パターンファイル監視用プロセスがウイルスチェックエンジンの終了処理に失敗しました。
- 3 ウイルスチェックプロセスがウイルスチェックエンジンの初期化処理に失敗しました。
- 4 ウイルスチェックプロセスがウイルスチェックエンジンの終了処理に失敗しました。

対処

ログファイルを採取し、障害受付窓口に連絡してください。

KDGV203-I パターンファイルが読み込まれました。VR=vr 情報

要因

Server・Scan サービスが起動され、これから使用するパターンファイルを読み込みました。本メッセージ出力以降からウイルスチェック処理は、このパターンファイルを使用します。

vr 情報：読み込んだパターンファイルのバージョン情報

対処

対処は不要です。

# 付録

---

付録 A ウイルス感染検出通知メールの形式

---

付録 B 隔離ディレクトリ下に作成される説明ファイルの形式

---

付録 C アプリケーションプログラムから参照できる変数名一覧

---

付録 D Windows 2008 使用時の注意事項

---

## 付録 A ウイルス感染検出通知メールの形式

### (1) 管理者への通知メールの形式

Server - Scan の環境設定の「ウイルス検出時の通知方法」で「管理者へ（メール送信）」を選択している場合に、管理者へ通知されるメールの形式を次に示します。

- メールの子題：「ウイルス感染ファイルの検出通知」
- メールの子属性：至急，受信通知あり。
- 本文の内容：

#### 1. メール・掲示板記事・登録文書中のファイルが破棄された場合

```
To XXX.XXX
From Groupmax Server - Scan

ウイルスに感染したファイルを検出したため、メールまたは掲示板記事を破棄しました。※5
ファイルを隔離しました。※1
隔離フォルダ：X:¥XXXX¥XXXXX ※1

Inspection date/time：YYYY/MM/DD HH:MM
Type：種別
XX：ファイル所有者名
Title：タイトル文
XXXX：YYYY/MM/DD HH:MM
Groupmaxアプリケーションサーバ固有の情報

Infected - File：ファイル名(Virus name - ウイルス名)
Scan error - File：ファイル名(Error Code - エンジン固有のエラーコード)
```

5：この文章は変更することができます。この文章を変更する方法を次に示します。

- オプションディレクトリ<sup>3</sup>下にあるファイル jmdmailb.txt の内容を変更してください。
- ウイルスを駆除する設定で登録文書のウイルスチェックを運用している場合に、1 文書中に駆除可能なウイルスと駆除できないウイルスが混在していた時は、破棄した旨のメールで通知されますが、文書中の駆除が成功したファイルについては、駆除後のファイルに置き換えて残ります。
- 登録文書をウイルスチェックする運用の場合は、この文章を「ウイルスに感染したファイルを検出したため、メール、掲示板記事または登録文書中のファイルを破棄しました。」等に変更して運用してください。

#### 2. メール・掲示板記事・登録文書が駆除された場合

```

To XXX.XXX
From Groupmax Server - Scan

ウイルスに感染したファイルを検出したため、ウイルスを駆除しました。
ファイルを隔離しました。※1
隔離フォルダ：X:¥XXXX¥XXXXX ※1

Inspection date/time：YYYY/MM/DD HH:MM
Type：種別
XX：ファイル所有者名
Title：タイトル文
XXXX：YYYY/MM/DD HH:MM
Groupmaxアプリケーションサーバ固有の情報

Clean successful - File：ファイル名 (Virus name - ウイルス名)

```

1：感染ファイルの処置で隔離を選択している場合にのみ表示します。

## (2) ファイル所有者への通知メールの形式

Server - Scan の環境設定の「ウイルス検出時の通知方法」で「ファイル所有者へのメール送信」を選択している場合に、ファイル所有者へ通知されるメールの形式を次に示します。

- メールのも主題：「ウイルス感染ファイルの検出通知」
- メールのも属性：至急，受信通知あり。
- 本文の内容：

### 1. メール・掲示板記事・登録文書中のファイルが破棄された場合

```

To XXX.XXX
From Groupmax Server - Scan

ウイルスに感染したファイルを検出したため、メールまたは掲示板記事を破棄しました。※2

Inspection date/time：YYYY/MM/DD HH:MM
Type：種別
XX：ファイル所有者名
Title：タイトル文
XXXX：YYYY/MM/DD HH:MM
Groupmaxアプリケーションサーバ固有の情報

Infected - File：ファイル名 (Virus name - ウイルス名)
Scan error - File：ファイル名 (Error Code - エンジン固有のエラーコード)

```

2：この文章は変更することができます。この文章を変更する方法を次に示します。

- オプションディレクトリ<sup>3</sup>下にあるファイル jsdmailb.txt の内容を変更してください。
- Server - Scan V3 から Server - Scan V5, V6 または V7 にバージョンアップした場合

合、ファイルの内容は継承されませんので、必要ならオプションディレクトリ<sup>3</sup> 下にあるファイル mailmsg.txt の内容をコピーしてください。

- ウイルスを駆除する設定で登録文書のウイルスチェックを運用している場合に、1 文書中に駆除可能なウイルスと駆除できないウイルスが混在していた時は、破棄した旨のメールで通知されますが、文書中の駆除が成功したファイルについては、駆除後のファイルに置き換えて残ります。
- 登録文書をウイルスチェックする運用の場合は、この文章を「ウイルスに感染したファイルを検出したため、メール、掲示板記事または登録文書中のファイルを破棄しました。」等に変更して運用してください。

## 2. メール・掲示板記事・登録文書が駆除された場合

```
To XXX.XXX
From Groupmax Server - Scan

ウイルスに感染したファイルを検出したため、ウイルスを駆除しました。※4

Inspection date/time : YYYY/MM/DD HH:MM
Type : 種別
XX : ファイル所有者名
Title : タイトル文
XXXX : YYYY/MM/DD HH:MM
Groupmaxアプリケーションサーバ固有の情報

Clean successful - File : ファイル名(Virus name - ウイルス名)
```

4 : この文章は変更することができます。この文章を変更する方法を次に示します。

- オプションディレクトリ<sup>3</sup> 下にあるファイル jscmailb.txt の内容を変更してください。

3 : オプションディレクトリは以下の通りです。

- Server - Scan ( Windows NT 版 ) : < Server - Scan インストールディレクトリ > ¥opt¥
- Server - Scan ( HP-UX 版 ) : /var/opt/SevScan/opt/

変更例を次に示します。

```
あなたのメールはウイルスに感染していました。[改行]
XX部XX課に連絡してください。[改行]
連絡先 : Tel. XXX-XXXX[改行]
[EOF]
```



---

## 付録 B 隔離ディレクトリ下に作成される説明ファイルの形式

Server - Scan の環境設定の「感染ファイルの処置」で「特定ディレクトリへ隔離」を選択している場合に、隔離ディレクトリ下に作成される感染情報説明ファイル (vakzin.txt) の形式を次に示します。

```
Inspection date/time : YYYY/MM/DD HH:MM
```

```
Type : 種別
```

```
XX : ファイル所有者名
```

```
Title : タイトル文
```

```
XXXX : YYYY/MM/DD HH:MM
```

```
Infected - File : ファイル名 (Virus name - ウイルス名)
```

```
Scan error - File : ファイル名 (Error Code - エンジン固有のエラーコード )
```

## 付録C アプリケーションプログラムから参照できる変数名一覧

Server - Scan がウイルス感染ファイルの検出時に起動するアプリケーションプログラムから、各種感染詳細情報を参照することができます。本情報を取得することにより、より高度なアプリケーションプログラムを作成できます。

感染詳細情報の参照は、アプリケーションプログラムの引数として以下の表に示す変数名を指定することで可能となります。Server - Scan がアプリケーションプログラムを起動する際、引数の指定内容をチェックし変数を実際の値に置き換えた後に起動します。

なお、変数に置き換えられる値は空白あるいは特殊文字を含むことがあるため、引数に変数名を指定する場合はダブルコーテーション（"）で囲んでください。

表 C-1 引数に指定できる変数名一覧

変数 (半角文字)	情報内容	形式
%R%	起動要因	アプリケーションプログラムの起動要因が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• "infected" : ウイルス感染ファイル検出時。</li> <li>• "error" : ウイルスチェック失敗時。</li> </ul> 但し、両者が混在する場合はときは "error" が設定されます。
%U%	所有者名	メール送信者、メール受信者あるいは掲示板記事掲示者、文書の更新者のニックネームまたは E-Mail アドレスが %0 で終了する文字列で設定されます。
%UK%	所有者種別	所有者の種別が %0 で終了する文字列で設定されます。
%T%	タイトル情報	メール、掲示板記事の主題または文書名が %0 で終了する文字列で設定されます。
%OK%	対象データの種別	対象データの種別が %0 で終了する文字列で設定されます。
%OT%	対象データ発生日時	"yyyy/mm/dd hh:mm" の形式で設定されます。
%F%	ファイル名	感染ファイルあるいはチェック失敗ファイルのファイル名が %0 で終了する文字列で設定されます。 複数のファイルが検出された場合、最初に検出されたファイルのファイル名が設定されます。 感染ファイルとチェック失敗ファイルが混在して検出された場合、チェック失敗ファイルのファイル名が設定されます。
%V%	ウイルス名	検出したウイルスの名称が %0 で終了する文字列で設定されます。 %R% が "error" の場合は "unknown" が設定されます。 複数の感染ファイルが検出された場合は、最初に検出された感染ファイルのウイルス名が設定されます。
%A%	処置種別	Server - Scan の環境設定で指定されている処置が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• "delete" : 破棄指定。</li> <li>• "clean" : 駆除指定。</li> </ul>

変数 (半角文字)	情報内容	形式
%C%	駆除結果	駆除の結果が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• cleaned : 駆除成功。</li><li>• fail : 駆除失敗。</li><li>• unknown : %R% が "error" または %A% が "delete" の場合</li></ul>
%X%	オブジェクト処 置結果	メール, 掲示板記事または登録文書の処置結果が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• normal : 配信前のメールまたは掲示板記事の場合, メールまたは掲示板記事を配信しました。配信済みのメール, 掲示板記事または登録文書の場合, メール, 掲示板記事または登録文書に駆除結果を反映しました。</li><li>• deleted : メール, 掲示板記事または登録文書中のファイルを破棄しました。</li></ul>

---

## 付録 D Windows 2008 使用時の注意事項

Windows 2008 で使用する場合の注意事項について説明します。

### 付録 D.1 Groupmax Address Console ウィンドウの表示

Windows 2008 では、Groupmax Address Console ウィンドウを表示する場合は「Interactive Services Detection」サービスを起動しておく必要があります。「Interactive Services Detection」サービスを起動した状態で Groupmax Address Console ウィンドウを表示しようとする、「対話型サービスダイアログの検出」ダイアログが表示されますので、「メッセージを表示」を選択して、Groupmax Address Console ウィンドウを表示します。

### 付録 D.2 コマンド実行時の注意事項

Windows 2008 ではユーザアカウント制御が有効になっていると、コマンド実行時にユーザアカウント制御ダイアログが出力されることがあります。コマンドは管理者権限で実行する必要があるため、ユーザアカウント制御ダイアログの [ 続行 ] ボタンを押してコマンドを実行します。コマンド実行時にユーザアカウント制御ダイアログを表示したくない場合や、コマンドをバッチで実行する場合は、以下の設定が必要です。

コマンドおよびバッチファイルを実行する場合、管理者として起動したコマンドプロンプトで実行してください。コマンドプロンプトを管理者として起動するには Windows 2008 の [ スタート ] メニューの [ コマンドプロンプト ] を右クリックし、ショートカットメニューから [ 管理者として実行 ] を選択します。なお、ユーザアカウント制御が無効の場合、コマンドプロンプトを管理者として起動する必要はありません。

タスクスケジューラからコマンドおよびバッチファイルを実行する場合、[ タスクの作成 ] ダイアログの「全般」タブで、「最上位の特権で実行する」を ON にしてください。

---

# 索引

## A

---

Address Server Console ウィンドウに表示されるメッセージ 106  
Address Server Console ウィンドウへの表示 22

## C

---

CD-ROM からのアンインストール 14  
CD-ROM からのインストール 9

## D

---

DAT からのアンインストール 13  
DAT からのインストール 9  
Document Manager の設定と運用 80

## E

---

E-Mail ユーザへ通知する 19  
Enterprise Edition 64  
errormsg.txt 61, 106

## G

---

Groupmax Address Console ウィンドウの表示 126  
Groupmax Address Server Console ウィンドウ 3, 18, 56, 59, 106  
Groupmax アプリケーションサーバ 2, 67  
GSS\_SETUP 23, 34  
GSS\_START 53, 83  
GSS\_STOP 55, 87

## J

---

jdsmailb.txt 21, 22  
jscmailb.txt 21, 122  
jsdmailb.txt 121

## M

---

mailmsg.txt 21, 22, 122

Mail Server 2, 68  
Mail Server のオプションファイル 77  
Mail Server の稼動中バックアップとの競合 62  
Microsoft Cluster Server 64  
mlcnclvk 78, 100  
mlreqvk 74, 75, 79, 94

## S

---

scmailb.txt 22  
Server - Scan サービス 52, 59, 74, 78  
Server - Scan サービスを監視する方法 59  
Server - Scan サービスを停止 87  
Server - Scan のアンインストール 11  
Server - Scan のインストール 6  
Server - Scan のサービスを起動 83

## V

---

vakzin.txt 57, 123  
vakzinlog.txt 106  
vkstat 11, 65, 74, 78, 79, 90

## W

---

Windows 2008 使用時の注意事項 126  
Windows NT Server 64

## あ

---

アプリケーションの起動 20  
アプリケーションプログラム 23, 124  
アンインストール 10, 65, 78

## い

---

異常終了 59  
インストール 64, 73, 74  
インストール先のディレクトリ 7  
インストールディレクトリ 10

---

 う
 

---

- ウイルス感染チェック 3
- ウイルス感染ファイルを検出した場合の通知 18
- ウイルス検出時の処置 22
- ウイルス検出時の処置の変更 32
- ウイルス検出時の通知方法 22
- ウイルス検出時の通知方法の変更 33
- ウイルスチェックエンジン 2, 4, 16, 64
- ウイルスチェックエンジンおよびパターンファイルの更新方法 58
- ウイルスチェックエンジンの組み込み 10
- ウイルスチェック処理待ちキューの状態 90
- ウイルスチェックの場所 69
- ウイルスチェック要求をキャンセル 100
- ウイルスを駆除 56

---

 か
 

---

- 外部と接続していない運用 77
- 隔離用ディレクトリ 18, 56
- 隔離用ディレクトリ名 22
- 隔離用フォルダ 32, 33, 64
- 感染情報説明ファイル 123
- 感染ファイルの隔離 3
- 感染メール 75
- 環境設定 16, 64, 73, 74
- 環境設定中に表示されるメッセージ 38
- 環境設定内容を変更する 32, 33
- 環境変数を 23, 33
- 感染ファイル検出時の通知 3
- 感染ファイルの駆除 3
- 感染ファイルの処置 17
- 管理者へ 18, 120
- 管理者へのメール送信 23

---

 き
 

---

- 既存のメールサーバに Server - Scan を導入する 73
- 既存のメールや記事をチェック 95

---

 く
 

---

- 駆除 17, 22
- クラスタ環境で使用するための条件 64
- クラスタ環境での設定と運用 63
- クラスタ環境の新規設定 64
- クラスタ環境への変更 65

---

 こ
 

---

- コマンド実行時の注意事項 126

---

 さ
 

---

- サービスの起動 52
- サービスの起動を「自動」に設定する 52
- サービスの起動を「手動」に設定する 53
- サービスの停止 54
- サービス名 64
- 作業用ディレクトリ名 22
- 作業用フォルダ 16, 32, 64
- 作業用フォルダの変更 32

---

 し
 

---

- 障害発生時の対処方法 59

---

 そ
 

---

- 送信者として使用するニックネーム 19, 23
- 送信のチェックだけを行う 77

---

 た
 

---

- 対象データ 68
- 対象リストファイル 95
- 他のワクチンソフト（ウイルス駆除ソフト）との共存 61

---

 ち
 

---

- チェック処理が障害で完了しなかったメール 78

---

 つ
 

---

- 通知先宛先 76

通知メールの形式 120, 121

## て

---

ディスクフル 57, 59

デスクトップとの対話をサービスに許可  
18, 20, 53

## と

---

特定フォルダへの隔離 (S) 18

トレンドマイクロ社製のウイルスチェックエ  
ンジン 10

## は

---

バージョンアップした場合の注意 21, 22

破棄 17, 22

パターンファイル 10, 78, 95

バックアップデータをリストア 77

## ひ

---

引数に指定できる変数名一覧 124

## ふ

---

ファイル所有者へ 19, 121

ファイル所有者へのメール送信 23, 75

不正なメールの検出, および削除 102

## め

---

メール, 掲示板記事の処置 17

メールや記事のチェック依頼を行う 94

メッセージファイル 59, 61, 106

## ゆ

---

有効化オプション 7, 20

ユーザ移動 74

## ろ

---

ログファイル 106